

授業科目名	総合国語						
担当者	仲村 稔						
開講年次	1年	開講期	1年前期	授業回数	30	単位数	2
授業の概要・到達目標							
(概要) 本科目の目的は、広く社会に通用する国語の知識、言語表現能力を身につけることにある。							
(到達目標) 社会人として、また医療人として求められる基礎的な国語力を身につける。 わかりやすい国語表現について理解し、実践できるようになる。 文章作成における基本的方法を学ぶ。また、医療人として必要な論理的文章表現を学修する。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者		
	講義の概要説明 国語の常識			講義	仲村 稔		
	日本文学史 ~文学の流れ ~			講義	仲村 稔		
	日本文学史 ~文学の流れ ~			講義	仲村 稔		
	日本文学史 ~文学の流れ ~ / 郷土の文学 (琉球文学と沖縄の文学)			講義	仲村 稔		
	郷土の文学 (琉球文学と沖縄の文学)			講義	仲村 稔		
	国語表現 人とつながるコミュニケーション			講義	仲村 稔		
	国語表現 人とつながるコミュニケーション			講義	仲村 稔		
	国語表現 人とつながるコミュニケーション			講義	仲村 稔		
	国語表現 ことばの力を磨こう 言語表現力・思考力を高める			講義	仲村 稔		
	国語表現 ことばの力を磨こう 言語表現力・思考力を高める			講義	仲村 稔		
	文章力を磨こう 「調べる」「考える」「書いて伝える」を身につける			講義	仲村 稔		
	文章力を磨こう 「調べる」「考える」「書いて伝える」を身につける			講義	仲村 稔		
	文章力を磨こう 「調べる」「考える」「書いて伝える」を身につける			講義	仲村 稔		
	文章力を磨こう 「調べる」「考える」「書いて伝える」を身につける			講義	仲村 稔		
	筆記試験・まとめ			講義・試験	仲村 稔		
期末試験(100)% 提出物()% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他()()%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社			
書名		著者		出版社			
参考書							
書名		著者		出版社			
書名		著者		出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							

授業科目名	心理学						
担当者	野村 学						
開講年次	1年	開講期	1年前期	授業回数	30	単位数	2
授業の概要・到達目標							
(概要)テキストに沿って、心理学の様々な分野について概観し、リハビリ実務者にとって有用な心理学的視点を学んでいく。							
(到達目標) 心理学の基礎知識を役立てて、人間の心や行動を理解しようとする姿勢を持つことができる。 人間の心や行動が様々な要因(生物・心理社会的要因)の影響を受けていることを理解できる。 心理学的視点を、自己理解にも活かすことができる。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	イントロダクション 心理学を学ぶにあたって				野村 学		
2	心理学とは				野村 学		
3	感覚・知覚・注意・認知			講義	野村 学		
4	情動・動機付け・パーソナリティ・社会			講義	野村 学		
5	記憶・学習			講義	野村 学		
6	言語・概念・思考			講義	野村 学		
7	発達と知能			講義	野村 学		
8	臨床心理学とは			講義	野村 学		
9	防衛機制			講義	野村 学		
10	心理アセスメント			講義	野村 学		
11	臨床で用いられる心理検査			講義	野村 学		
12	臨床心理学の介入方法(行動的)			講義	野村 学		
13	臨床心理学の介入方法(内面的)			講義	野村 学		
14	臨床心理学の介入方法(相談的)			講義	野村 学		
15	まとめ・試験			講義・試験	野村 学		
期末試験(70)% 提出物()% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他(出席日数)(30)%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社			
リハベーシック 心理学・臨床心理学		内山靖・藤井浩美・立石雅子 編		医歯薬出版株式会社			
書名		著者		出版社			
参考書							
書名		著者		出版社			
書名		著者		出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							

授業科目名	物理学						
担当者	與儀 達裕						
開講年次	1年	開講期	1年後期	授業回数	30	単位数	2
授業の概要・到達目標							
(概要) てこの原理と種類、つりあいに必要な力。力の作用・反作用と摩擦力、つりあいに必要な力。 電気回路とオームの法則。原子の世界(X線、 γ 線)。							
(到達目標) 力のモーメントとは何か理解し、力のモーメントを計算できること。 電流が磁界から力を受けること、導体が磁界中で働くと起電力が生ずること。 X線、 γ 線、 α 線、 β 線を理解できること。放射線の取り扱いを理解すること。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者		
	何故物理が必要か?バネの伸びと力の合成			講義	與儀 達裕		
	テコの原理と第1のテコ 演習1			講義	與儀 達裕		
	第2のテコ、第3のテコ 演習2			講義	與儀 達裕		
	輪軸、滑車、歯車 演習3			講義	與儀 達裕		
	生体の中のテコ 演習4			講義	與儀 達裕		
	下肢に存在するテコ 演習5			講義	與儀 達裕		
	作用・反作用、力の分解、斜面、摩擦力 演習6			講義	與儀 達裕		
	まとめ・中間試験			講義	與儀 達裕		
	力学的仕事とエネルギー 演習7			講義	與儀 達裕		
	浮力と水の圧力 演習8			講義	與儀 達裕		
	帯電列、電気回路、磁界から受ける力			講義	與儀 達裕		
	磁界中での導体の運動による起電力 演習9			講義	與儀 達裕		
	波、音、熱、光、電磁波、X線			講義	與儀 達裕		
	γ 線、放射線の取り扱い、半価層、半減期 演習10			講義	與儀 達裕		
	まとめ・期末試験			講義	與儀 達裕		
期末試験(50)% 提出物()% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他(中間試験)(50)% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社			
PT・OT・PO身体運動の理解につなげる物理学				南江堂			
書名		著者		出版社			
参考書							
書名		著者		出版社			
書名		著者		出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							

授業科目名	社会学						
担当者	野入 直美						
開講年次	1年	開講期	1年前期	授業回数	30	単位数	2
授業の概要・到達目標							
(概要) 私たちをとりまく社会で起こっている事を調べ、まとめて発表する授業です。							
(到達目標) テーマをたてて調べ学習ができるようになります。 グループのメンバーと協力して作業ができるようになります。 他のグループのメンバーにわかりやすくプレゼンテーションができるようになります。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	オリエンテーション			講義	野入 直美		
2	グループとテーマを決める			講義	野入 直美		
3	役割分担			講義	野入 直美		
4	インターネットによる検索			講義	野入 直美		
5	文献調査			講義	野入 直美		
6	図書館の活用			講義	野入 直美		
7	配布資料の章構成の検討			講義	野入 直美		
8	発表についての打ち合わせ			講義	野入 直美		
9	資料の印刷			講義	野入 直美		
10	発表原稿の読み合わせ			講義	野入 直美		
11	発表			講義	野入 直美		
12	発表			講義	野入 直美		
13	発表			講義	野入 直美		
14	発表			講義	野入 直美		
15	発表			講義	野入 直美		
期末試験()% 提出物(50)% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試験()% 発表(50)% その他() ()%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社			
書名		著者		出版社			
参考書							
書名		著者		出版社			
書名		著者		出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							

授業科目名	日常英語						
担当者	Joan Tarbert						
開講年次	1年	開講期	1年前期	授業回数	30	単位数	2
授業の概要・到達目標							
(概要)基礎英語: 日常に必要な英会話を身につける							
(到達目標) 英語で自己紹介や家族の照会ができるようになる 日常英会話でよく使われる基礎的な表現を理解し、使えるようになる 英語で簡単な質疑応答ができるようになる							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	Self-introductions			講義	Joan Tarbert		
2	Quiz/Basic grammar review			講義	Joan Tarbert		
3	Quiz/Wh-questions			講義	Joan Tarbert		
4	Quiz/Wh-questions			講義	Joan Tarbert		
5	Describing people			講義	Joan Tarbert		
6	Describing people			講義	Joan Tarbert		
7	Quiz/Describing family			講義	Joan Tarbert		
8	Quiz/How often			講義	Joan Tarbert		
9	Wh-questions/Past			講義	Joan Tarbert		
10	Past			講義	Joan Tarbert		
11	Quiz/Health problems			講義	Joan Tarbert		
12	Quiz/Making requests			講義	Joan Tarbert		
13	Quiz/Review/Interview			講義	Joan Tarbert		
14	Quiz/Review/Interview			講義	Joan Tarbert		
15	まとめ			講義	Joan Tarbert		
期末試験(40)% 提出物(20)% 小テスト(20)% 実技試験()% 口頭試験(20)% 発表()% その他() ()%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社			
書名		著者		出版社			
参考書							
書名		著者		出版社			
書名		著者		出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							

授業科目名	医学関連英語						
担当者	下地 みさ子						
開講年次	1年	開講期	1年前期	授業回数	30	単位数	2
授業の概要・到達目標							
<p>(概要)作業療法領域の基本的な医学英語を学ぶ。 作業療法関連の英文抄録の活用法が理解できる。 国際社会における作業療法の現状と課題を理解し、実践するための基礎的素養を身に付ける。</p>							
<p>(到達目標)作業療法の臨床で基礎的な専門用語が英語で使えるために、必要な基礎知識を理解する。 作業療法関連の英文抄録の活用ができる。 国際社会における作業療法の現状と課題が説明できる。</p>							
履修における注意事項（受講ルールなど）							
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容				方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	オリエンテーション、医学英語				講義	下地 みさ子	
2	医学英語				講義・小テスト	下地 みさ子	
3	医学英語				講義・小テスト	下地 みさ子	
4	医学英語				講義・小テスト	下地 みさ子	
5	医学英語				講義・小テスト	下地 みさ子	
6	医学英語				講義・小テスト	下地 みさ子	
7	医学英語				講義・小テスト	下地 みさ子	
8	上肢機能講義&実技				講義・小テスト	下地 みさ子	
9	リハビリテーション医療に関する略語				講義	下地 みさ子	
10	リハビリテーション医療に関する略語				講義	下地 みさ子	
11	国際社会における作業療法の現状				講義	下地 みさ子	
12	OT関連英文抄録の構成				講義	下地 みさ子	
13	OT関連英文抄録の読解				講義・演習	下地 みさ子	
14	OT関連英文抄録の読解				講義・演習	下地 みさ子	
15	まとめ				講義・試験	下地 みさ子	
期末試験 (50) % 提出物 (10) % 小テスト (40) % 実技試験 () % 口頭試問 () % 発表 () % その他 () () %							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社			
リハビリテーションの基礎英語		清水雅子 編著		メジカルビュー社			
書名		著者		出版社			
参考書							
書名		著者		出版社			
書名		著者		出版社			
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）							
学習した内容の確認を小テストでしますので、復習するようにしましょう。							

授業科目名	情報処理						
担当者	小金澤 賢司						
開講年次	1年	開講期	1年前期	授業回数	16	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要)レポート作成方法と日誌の理解							
(到達目標)パソコンを使用し、レポートを作成できる							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	オリエンテーション 研究法			講義	小金澤 賢司		
2	研究レポート作成			演習	小金澤 賢司		
3	研究レポート作成			演習	小金澤 賢司		
4	研究レポート作成			演習	小金澤 賢司		
5	研究レポート作成			演習	小金澤 賢司		
6	研究レポートの理解			講義	小金澤 賢司		
7	症例日誌の書き方			講義	小金澤 賢司		
8	症例日誌の書き方、まとめ			講義	小金澤 賢司		
期末試験(40)% 提出物(60)% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試験()% 発表()% その他() ()% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者			出版社		
書名		著者			出版社		
参考書							
書名		著者			出版社		
書名		著者			出版社		
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							

授業科目名		コミュニケーション論					
担当者		小金澤 賢司					
開講年次	1年	開講期	1年前期	授業回数	16	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要)コミュニケーションの大切さを理解し、基本的なスキルを身につける							
(到達目標)誰とでも積極的にコミュニケーションをとることができる							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容				方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	オリエンテーション コミュニケーションとは				講義	小金澤 賢司	
2	自分らしさに気付く				講義	小金澤 賢司	
3	コミュニケーション力をつける				講義	小金澤 賢司	
4	自律した自分になる				講義	小金澤 賢司	
5	社会人のマナー				講義	小金澤 賢司	
6	臨床でのコミュニケーション				講義	小金澤 賢司	
7	臨床でのコミュニケーション				講義	小金澤 賢司	
8	発表 まとめ				講義	小金澤 賢司	
期末試験 (40) %		提出物 (60) %		小テスト () %		実技試験 () %	
口頭試験 () %		発表 () %		その他 () () %			
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者			出版社		
PTOTのためのコミュニケーション		山口美和			医学書院		
書名		著者			出版社		
参考書							
書名		著者			出版社		
書名		著者			出版社		
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							

授業科目名	解剖学							
担当者	高山 千利/ 石田 肇/ 泉水 奏							
開講年次	1年	開講期	1年前期,1年後期		授業回数	120	単位数	4
授業の概要・到達目標								
(概要) 中等教育での生物学の続きとして、解剖学教育では、個体レベルの形態学の認識を深める。解剖学の理解のために、比較解剖学を念頭においた講義を先行して行い、骨学実習や解剖学実習(2年次)を進める。								
(到達目標) 講義と実習を通して、人体の正常構造を理解する。 人体の構造に付けられた解剖学用語を習得する。 解剖学用語と人体構造の実物ならびに画像を結びつけることができる科学的思考を身につける。								
履修における注意事項(受講ルールなど)								
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。								
回数	講義内容				方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1・2	骨学・靭帯学総論				講義	石田 肇		
3・4	骨学・靭帯学(頭蓋)				講義	石田 肇		
5・6	骨学実習				講義	石田 肇		
7・8	骨学実習				講義	石田 肇		
9・10	骨学実習および口頭試問				講義	石田 肇		
11・12	骨学・靭帯学(上肢骨)				講義	石田 肇		
13・14	骨学・靭帯学(脊椎)				講義	石田 肇		
15・16	骨学・靭帯学(下肢骨)				講義	石田 肇		
17・18	解剖学総論 解剖学とは - 細胞と組織				講義	泉水 奏		
19・20	組織(骨、筋肉、神経)				講義	泉水 奏		
21・22	循環系(心臓)				講義	泉水 奏		
23・24	循環系(大循環)、呼吸器系				講義	泉水 奏		
25・26	消化器系1				講義	泉水 奏		
27・28	消化器系2				講義	泉水 奏		
29・30	泌尿器系				講義	泉水 奏		
31・32	生殖器、内分泌系				講義	泉水 奏		
33・34	感覚器系、頭部の筋				講義	泉水 奏		
35・36	骨学まとめ・試験および筋学総論まとめ・試験				講義・試験	石田 肇		
37・38	脊髄神経				講義	高山 千利		
39・40	脳神経				講義	高山 千利		
41・42	脳神経核				講義	高山 千利		
43・44	脊髄、脳				講義	高山 千利		
45・46	運動系伝導路				講義	高山 千利		
47・48	感覚系伝導路				講義	高山 千利		
49・50	まとめ・試験				講義	泉水 奏/高山 千利		
51・52	筋学(上肢)				講義	石田 肇		
53・54	筋学(上肢)				講義	石田 肇		
55・56	筋学(下肢)				講義	石田 肇		
57・58	筋学(下肢)				講義	石田 肇		
59・60	筋学(下肢)およびまとめ・試験				講義・試験	石田 肇		
期末試験(100)% 提出物()% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他()()%								
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。								
教科書								
書名			著者			出版社		
プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系						医学書院		
書名			著者			出版社		

標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学		医学書院
参 考 書		
書 名	著 者	出 版 社
イラストレイテッドカラーテキスト 神経解剖学		三輪書店
書 名	著 者	出 版 社
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）		

授業科目名	解剖学演習						
担当者	高山 千利/ 石田 肇						
開講年次	2年	開講期	2年前期,2年後期	授業回数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標							
<p>(概要)人体解剖学の学部教育では、個体レベルの形態学の認識を深めてゆく必要がある。解剖学実習では、学生たちが後に学ぶ臨床科目との兼ね合いと限られた時間の中で、重点を決めて実習を進めていく。また、画像診断の進展を考え、まさに「切り口」の違いから解剖学はできるが、画像は読めないという状況をなくするため、実習室内で様々な画像(とくに脳)と対比させながら実習を進める。</p> <p>(到達目標) 実習を通して、人体の正常構造を理解する。 人体の構造に付けられた解剖学用語を習得する。 解剖学用語と人体構造の実物ならびに画像を結びつけることができる科学的思考を身につける。</p>							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容				方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	オリエンテーション				講義	石田 肇	
2	人体解剖学実習見学				講義	石田 肇	
3	人体解剖学実習見学				講義	石田 肇	
4	人体解剖学実習見学				講義	石田 肇	
5	人体解剖学実習見学				講義	石田 肇	
6	人体解剖学実習見学				講義	石田 肇	
7	人体解剖学実習見学				講義	石田 肇	
8	人体解剖学実習見学				講義	石田 肇	
9	人体解剖学実習見学				講義	石田 肇	
10	人体解剖学実習見学				講義	石田 肇	
11	人体解剖学実習見学				講義	石田 肇	
12	神経解剖学実習見学				講義	高山 千利	
13	神経解剖学実習見学				講義	高山 千利	
14	神経解剖学実習見学				講義	高山 千利	
15	神経解剖学実習見学				講義	高山 千利	
期末試験()% 提出物()% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問(40)% 発表()% その他(出席点)(60)%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者			出版社		
書名		著者			出版社		
参考書							
書名		著者			出版社		
書名		著者			出版社		
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							

授業科目名	生理学						
担当者	尾尻 義彦						
開講年次	1年	開講期	1年前期	授業回数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要)人体のはたらきとメカニズムを理解し、医療従事者として基礎知識を習得する。							
(到達目標) 人体のはたらきとメカニズムが理解できる。 わからないことや興味のある事柄は自分で調べられる。 要点をまとめて、わかりやすく説明できる。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	第1章 生命現象と人体			講義	尾尻 義彦		
2	第1章 生命現象と人体			講義	尾尻 義彦		
3	第2章 細胞の構造と機能			講義	尾尻 義彦		
4	第2章 細胞の構造と機能			講義	尾尻 義彦		
5	第3章 神経の興奮伝導と末梢神経			講義	尾尻 義彦		
6	第3章 神経の興奮伝導と末梢神経			講義	尾尻 義彦		
7	第4章 中枢神経系			講義	尾尻 義彦		
8	第4章 中枢神経系			講義	尾尻 義彦		
9	第5章 筋と骨			講義	尾尻 義彦		
10	第5章 筋と骨			講義	尾尻 義彦		
11	第6章 感覚			講義	尾尻 義彦		
12	第6章 感覚			講義	尾尻 義彦		
13	第7章 血液			講義	尾尻 義彦		
14	第7章 血液			講義	尾尻 義彦		
15	まとめ・試験			講義・試験	尾尻 義彦		
期末試験(100)% 提出物()% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他()()%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社			
標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 生理学				医学書院			
書名		著者		出版社			
PT・OT 基礎から学ぶ生理学				医葉葉出版			
参考書							
書名		著者		出版社			
書名		著者		出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							

授業科目名	生理学						
担当者	尾尻 義彦						
開講年次	1年	開講期	1年後期	授業回数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要)人体のはたらきとメカニズムを理解し、医療従事者として基礎知識を習得する。							
(到達目標) 人体のはたらきとメカニズムが理解できる。 わからないことや興味のある事柄は自分で調べられる。 要点をまとめて、わかりやすく説明できる。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者		
	第8章 心臓と循環			講義			
	第8章 心臓と循環			講義			
	第9章 呼吸とガスの運搬			講義			
	第9章 呼吸とガスの運搬			講義			
	第10章 尿の生成と排泄			講義			
	第10章 尿の生成と排泄			講義			
	第11章 酸塩基平衡			講義			
	第12章 消化と吸収			講義			
	第12章 消化と吸収			講義			
	第13章 内分泌			講義			
	第14章 代謝と体温			講義			
	第14章 代謝と体温			講義			
	第15章 生殖と発生・成長と老化			講義			
	第16章 運動生理			講義			
	まとめ・試験			講義・試験			
期末試験(100)%		提出物()%		小テスト()%		実技試験()%	
口頭試問()%		発表()%		その他()%		()%	
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社			
標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 生理学				医学書院			
書名		著者		出版社			
参考書							
書名		著者		出版社			
PT・OT 基礎から学ぶ生理学				医葉薬出版			
書名		著者		出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							

授業科目名	生理学						
担当者	松下 正之						
開講年次	1年	開講期	1年前期	授業回数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要)生理学の基礎である細胞の機能と臓器や個体の制御機構を理解する。特に、本講義では神経系、感覚器、運動などの動物性生理学についての各論について講義を行う。							
(到達目標) 生理学の基礎である、細胞の機能や恒常性維持機構を学ぶ。 神経や感覚器などについて理解する。 筋肉や骨格による運動の生理学を学ぶ。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	生理学の基礎1:細胞機能			講義	松下 正之		
2	生理学の基礎2:核酸と遺伝子、幹細胞			講義	松下 正之		
3	神経系の基本的機能1:神経細胞			講義	松下 正之		
4	神経系の基本機能2:神経の伝達			講義	松下 正之		
5	神経系の基本機能3シナプスの機能			講義	松下 正之		
6	末梢神経			講義	松下 正之		
7	中枢神経			講義	松下 正之		
8	自律神経			講義	松下 正之		
9	感覚生理1:総論、体性感覚、化学感覚			講義	松下 正之		
10	感覚生理2:視覚、聴覚			講義	松下 正之		
11	運動生理1:筋肉の種類と性質			講義	松下 正之		
12	運動生理2:骨格筋の生理学			講義	松下 正之		
13	病態生理1:精神疾患			講義	松下 正之		
14	病態生理2:脳梗塞			講義	松下 正之		
15	まとめ・試験			講義・試験	松下 正之		
期末試験(100)% 提出物()% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他() ()%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名			著者	出版社			
標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 生理学				医学書院			
書名			著者	出版社			
PT・OT 基礎から学ぶ生理学ノート				医葉葉出版			
参考書							
書名			著者	出版社			
書名			著者	出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							

授業科目名	生理学演習						
担当者	専任教員						
開講年次	1年	開講期	1年後期	授業回数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要)主たる生理機能である、心・循環・呼吸・筋活動のそれぞれについて、基本的な機能評価とそのプロセスについて学ぶ。							
(到達目標)各項目について、評価の意義及び意味を説明することができる。 各項目について、検査機器の実際的な操作方法を身につけ、実施できる。 各検査項目より得られたデータを解釈し、説明することができる。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	オリエンテーション(概要説明・準備・注意事項など)			講義	専任教員		
2	事前学習(グループ及び個別)・準備			講義	専任教員		
3	演習 血圧			講義	専任教員		
4	演習 血圧			講義	専任教員		
5	演習した項目についてディスカッション			講義	専任教員		
6	演習 心電図			講義	専任教員		
7	演習 心電図			講義	専任教員		
8	演習した項目についてディスカッション			講義	専任教員		
9	演習 呼吸			講義	専任教員		
10	演習 呼吸			講義	専任教員		
11	演習した項目についてディスカッション			講義	専任教員		
12	演習 筋電図			講義	専任教員		
13	演習 筋電図			講義	専任教員		
14	演習した項目についてディスカッション			講義	専任教員		
15	まとめ			講義・試験	専任教員		
期末試験(60)% 提出物(20)% 小テスト(20)% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他() ()%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社			
PT・OT 基礎から学ぶ生理学ノート				医歯薬出版			
書名		著者		出版社			
参考書							
書名		著者		出版社			
書名		著者		出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							

授業科目名	運動学						
担当者	西村 正彦						
開講年次	1年	開講期	1年前期	授業回数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要)人間の身体運動を理解するため、生体力学について学ぶ							
(到達目標) 身体運動の運動軸・面、関節運動を説明できる。 生体運動の運動学的分析を記述できる。 運動法則を関節運動に応用して説明できる。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	基礎運動学(医歯薬出版)			講義	西村 正彦		
2	身体運動と力学、運動における時間と空間			講義	西村 正彦		
3	身体運動の面と軸、関節の表現			講義	西村 正彦		
4	運動の観測と運動学的分析			講義	西村 正彦		
5	運動の観測と運動学的分析(落下運動)演習			講義	西村 正彦		
6	運動の観測と運動学的分析(関節運動)演習			講義	西村 正彦		
7	骨・関節の構造と機能			講義	西村 正彦		
8	骨格筋の構造と機能			講義	西村 正彦		
9	円運動、筋力と重力			講義	西村 正彦		
10	モーメント、運動の法則			講義	西村 正彦		
11	仕事とエネルギー、身体とてこ			講義	西村 正彦		
12	関節モーメント			講義	西村 正彦		
13	筋活動			講義	西村 正彦		
14	運動の観測と運動学的分析(腕立て伏せ)演習			講義	西村 正彦		
15	まとめ			講義・試験	西村 正彦		
期末試験(100)% 提出物()% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他()()%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社			
書名		著者		出版社			
参考書							
書名		著者		出版社			
書名		著者		出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							

授業科目名	運動学						
担当者	西村 正彦						
開講年次	1年	開講期	1年後期	授業回数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要)人間の身体運動理解のため、四肢・体幹の運動について学習する。							
(到達目標) 関節の構造と機能について述べるができる。 関節運動時の腱・人体の役割について説明できる。 動作の遂行に必要な関節運動と作用する筋について説明できる。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	上肢帯と肩関節の運動			講義	西村 正彦		
2	上肢帯と肩関節の運動			講義	西村 正彦		
3	肘関節と前腕の運動			講義	西村 正彦		
4	肘関節と前腕の運動			講義	西村 正彦		
5	手関節と手の運動			講義	西村 正彦		
6	手関節と手の運動			講義	西村 正彦		
7	下肢帯と股関節の運動			講義	西村 正彦		
8	下肢帯と股関節の運動			講義	西村 正彦		
9	膝関節の運動			講義	西村 正彦		
10	膝関節の運動			講義	西村 正彦		
11	足関節と足の運動			講義	西村 正彦		
12	足関節と足の運動			講義	西村 正彦		
13	体幹の運動			講義	西村 正彦		
14	頭部の運動			講義	西村 正彦		
15	まとめ			講義・試験	西村 正彦		
期末試験(60)% 提出物()% 小テスト(40)% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他()()%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社			
基礎運動学				医歯薬出版			
書名		著者		出版社			
参考書							
書名		著者		出版社			
書名		著者		出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							

授業科目名	運動学						
担当者	知花 貞幸						
開講年次	1年	開講期	1年後期	授業回数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要)姿勢制御、歩行、運動処方、運動学習の基礎的性質について学び、リハビリテーション分野において、どのように活用されるかについて学ぶ。							
(到達目標)姿勢とその制御に関する機構を理解し、説明できる。 ・正常歩行の分析法を理解し、説明できる。 ・運動処方の原則と運動学習について理解し、説明できる。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者		
	姿勢とその制御			講義・演習	知花 貞幸		
	姿勢反射について			講義・演習	知花 貞幸		
	立位姿勢の安定、立位姿勢の異常			講義・演習	知花 貞幸		
	歩行(歩行周期・歩行パターン)			講義・演習	知花 貞幸		
	歩行(歩行周期・歩行パターン)			講義・演習	知花 貞幸		
	歩行(歩行周期・歩行パターン)			講義・演習	知花 貞幸		
	異常歩行(歩行周期・歩行パターン)			講義・演習	知花 貞幸		
	運動の生体機能への影響			講義・演習	知花 貞幸		
	体力と運動処方			講義・演習	知花 貞幸		
	体力と運動処方			講義・演習	知花 貞幸		
	体力と運動処方			講義・演習	知花 貞幸		
	運動学習			講義・演習	知花 貞幸		
	運動学習			講義・演習	知花 貞幸		
	運動学習			講義・演習	知花 貞幸		
	まとめ			講義・まとめ	知花 貞幸		
期末試験(70)% 提出物(30)% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試験()% 発表()% その他() ()%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社			
基礎運動学 第6版補訂		中村隆一		医歯薬出版			
書名		著者		出版社			
参考書							
書名		著者		出版社			
書名		著者		出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							

授業科目名	人間発達学						
担当者	溝田 康司						
開講年次	1年	開講期	1年後期	授業回数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要) 理学療法・作業療法の基礎として、各年齢の発達段階を、胎生期から老年期に渡る生涯発達学としての人間発達を学ぶ。また、フロイトやエリクソン、ピアジェといった生得的要因と環境要因の双方から俯瞰した発達理論の概要を学び、発達の課題について理解を深める。							
(到達目標) 1) 胎生期から終末を迎えるまでの人(ヒト)の発達過程について理解する。 2) 人(ヒト)は生涯にわたって発達する存在であることを理解する。 3) 発達論の概要にふれ、人(ヒト)の発達が生物学的な存在である一方環境と関わりながら社会的存在であることを理解する。 4) 各年齢期の発達課題を理解する。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
初回到配布する講義進行表に記載された教科書の該当ページを事前学習として一読して講義に臨むこと。 講義3回目から14回目まで毎回web復習クイズを実施。各講義終了時に当日の学びの振替入りシートを記載し提出。							
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者		
	オリエンテーション(自己紹介・系統発生と個体発生)			講義	溝田 康司		
	人間発達学とは			講義	溝田 康司		
	発育の4原則			講義・クイズ	溝田 康司		
	胎芽期・胎児期・出生の概要			講義・クイズ	溝田 康司		
	出生・新生児期の概要			講義・クイズ	溝田 康司		
	乳児期(生理機能・運動発達)の概要			講義・クイズ	溝田 康司		
	反射・反応の概要			講義・クイズ	溝田 康司		
	運動発達の概要			講義・クイズ	溝田 康司		
	認知/言語/社会巧緻動作/等の発達			講義・クイズ	溝田 康司		
	5歳までの発達・ピアジェの発達理論			講義・クイズ	溝田 康司		
	ピアジェの発達理論・VTR			講義・クイズ	溝田 康司		
	フロイト・エリクソン・ゲゼルの発達理論			講義・クイズ	溝田 康司		
	学童期・青年期			講義・クイズ	溝田 康司		
	壮年期・高齢期・まとめ			講義・クイズ	溝田 康司		
	試験				溝田 康司		
期末試験(90)% 提出物()% 小テスト(10)% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他()()%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社			
コメディカルのための専門基礎分野テキスト『人間発達学』		福田恵美子編		中外医学社			
書名		著者		出版社			
参考書							
書名		著者		出版社			
リハビリテーションのための人間発達学		大城昌平編		メディカルプレス			
書名		著者		出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
毎回の講義の進行はおおよそ下記の通り。1) Web復習クイズ(10分程度) 2) 教科書講義該当範囲の黙読(10分程度) 3) 当日分の講義概要の説明 4) 講義(50~60分程度) 5) 当日分の振り返りシート記入(10分) 6) 講義終了							

授業科目名	病理学						
担当者	非常勤講師						
開講年次	1年	開講期	1年後期	授業回数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標							
<p>(概要)人体の病的な状態を、主に肉眼・顕微鏡を利用した形態学的観察により得られるを基に、疾病の成因や生体反応の意義を認識する学問であり、昨今では分子レベルでの反応を含んだ病因を追求する学問である。人体病態総論とそれぞれの病態の臓器別の疾患を概説する。</p> <p>(到達目標) 人体における疾患の原因を理解できる。 病態の専門用語を理解できる。 臓器別の疾患を理解できる。</p>							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容				方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	はじめに・疾病の成因概論					非常勤講師	
2	先天異常					非常勤講師	
3	環境の関わりと代謝障害					非常勤講師	
4	循環障害					非常勤講師	
5	生体防御とその破綻					非常勤講師	
6	感染症					非常勤講師	
7	腫瘍					非常勤講師	
8	循環器					非常勤講師	
9	消化器					非常勤講師	
10	呼吸器					非常勤講師	
11	内分泌器					非常勤講師	
12	生殖器・乳腺・腎・尿路系					非常勤講師	
13	運動器系、脳・神経系					非常勤講師	
14	歯・口腔系、感覚器系、造血器系					非常勤講師	
15	まとめ・試験					非常勤講師	
期末試験(100)% 提出物()% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他()()%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社			
カラーで学べる病理学				ヌーベルヒロカワ			
書名		著者		出版社			
参考書							
書名		著者		出版社			
書名		著者		出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							

授業科目名	神経内科学						
担当者	遠藤 一博/ 崎間 洋邦/ 神里 尚美/ 西村 正彦/ 仲地 耕/ 非常勤講師						
開講年次	2年	開講期	2年前期,2年後期	授業回数	52	単位数	2
授業の概要・到達目標							
(概要)PT・OTに必要な神経系機能解剖と疾患の病態を理解させる。							
(到達目標) 病態を理解するための神経機能解剖を学ぶ。 正しい神経学用語を身につける。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	神経診察法(意識の神経機構)			講義	神里 尚美		
2	神経診察法(頭蓋内圧の神経機構、てんかん・脳波、感染症)			講義	神里 尚美		
3	筋疾患(自己免疫機構、多発筋炎、重力筋無力症)			講義	神里 尚美		
4	筋疾患(分子遺伝、筋ジストロフィー、代謝性疾患)			講義	神里 尚美		
5	末梢神経障害(自己免疫機構、GBS/CIDP)			講義	神里 尚美		
6	神経診察法(脳神経の生理・解剖)			講義	崎間 洋邦		
7	神経診察法(感覚系の生理・解剖)			講義	崎間 洋邦		
8	神経診察法(運動系・反射の生理・解剖)			講義	崎間 洋邦		
9	神経診察法(協調運動・自律神経の生理・解剖)			講義	崎間 洋邦		
10	神経診察法(痙縮の生理・解剖、ボツリヌス治療)			講義	非常勤講師		
11	神経診察法(高次機能の生理・解剖)			講義	遠藤 一博		
12	中枢神経系・脱髄、変性			講義	遠藤 一博		
13	中間試験・まとめ			講義・試験			
14	脳血管障害(脳梗塞の病型、疫病)			講義	仲地 耕		
15	脳血管障害(脳梗塞の治療、地域連携を含めて)			講義	仲地 耕		
16	神経放射線			講義	西村 正彦		
17	脳腫瘍			講義	西村 正彦		
18	水頭症、脊髄空洞症			講義	西村 正彦		
19	頭部外傷・感染症			講義	西村 正彦		
20	末梢神経障害(ALS)			講義	神里 尚美		
21	分子遺伝(メンデル遺伝、トリプレットリピート、ミトコンドリア遺伝)			講義	神里 尚美		
22	神経診察法(小脳の生理・解剖)、脊髄小脳変性症			講義	神里 尚美		
23	基底核疾患(パーキンソン病など)			講義	神里 尚美		
24	基底核疾患(ジストニア、ボツリヌス治療)			講義	神里 尚美		
25	予備日、試験対策			講義	神里 尚美		
26	期末試験・まとめ			講義・まとめ			
期末試験(50)% 提出物()% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他(中間試験)(50)%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社			
標準理学療法学作業療法学専門分野 神経内科学				医学書院			
書名		著者		出版社			
絵でみる脳と神経				医学書院			
参考書							
書名		著者		出版社			

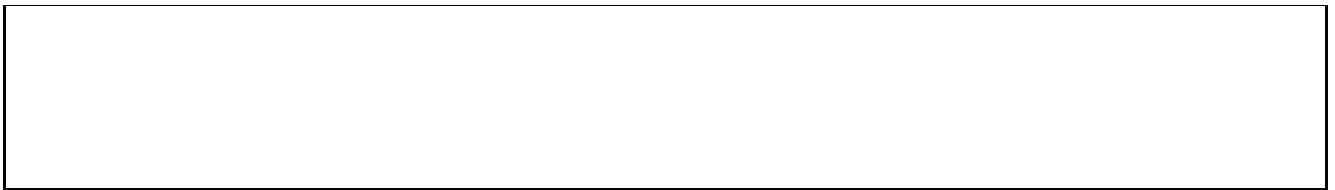
書名	著者	出版社
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）		

授業科目名	精神医学						
担当者	宮平 良尚						
開講年次	2年	開講期	2年前期,2年後期	授業回数	60	単位数	2
授業の概要・到達目標							
(概要)精神医学の基礎と臨床を学び、精神科リハビリテーションを理解する。							
(到達目標) 精神疾患を理解して説明できる。 精神科リハビリテーションについて理解を深める。 精神障害者に対する理解を深める。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	精神医学序論			講義	宮平 良尚		
2	医学心理学			講義	宮平 良尚		
3	精神症状学			講義	宮平 良尚		
4	精神医学的診断学			講義	宮平 良尚		
5	統合失調症()			講義	宮平 良尚		
6	統合失調症()			講義	宮平 良尚		
7	気分障害()			講義	宮平 良尚		
8	気分障害()			講義	宮平 良尚		
9	症状・器質性精神障害			講義	宮平 良尚		
10	てんかん			講義	宮平 良尚		
11	アルコール・薬物による精神障害			講義	宮平 良尚		
12	治療論(薬物療法)			講義	宮平 良尚		
13	治療論(精神療法、生活療法)			講義	宮平 良尚		
14	中間特論			講義	宮平 良尚		
15	中間まとめ・試験			講義・試験	宮平 良尚		
16	神経症()			講義	宮平 良尚		
17	神経症()			講義	宮平 良尚		
18	睡眠障害			講義	宮平 良尚		
19	心身症			講義	宮平 良尚		
20	パーソナリティ障害			講義	宮平 良尚		
21	児童・思春期精神医学()			講義	宮平 良尚		
22	児童・思春期精神医学()			講義	宮平 良尚		
23	老年期精神医学()			講義	宮平 良尚		
24	老年期精神医学()			講義	宮平 良尚		
25	精神医学と社会()			講義	宮平 良尚		
26	精神医学と社会()			講義	宮平 良尚		
27	精神科リハビリテーション()			講義	宮平 良尚		
28	精神科リハビリテーション()			講義	宮平 良尚		
29	期末特論			講義	宮平 良尚		
30	期末まとめ・試験			講義・試験	宮平 良尚		
期末試験(90)% 提出物()% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他(出席状況・態度)(10)%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社			
STEP精神科				海馬書房			
書名		著者		出版社			

参 考 書		
書 名	著 者	出 版 社
現代臨床精神医学	大熊 輝雄	
書 名	著 者	出 版 社
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）		
講義および教科書から得られた知識を、参考書などでさらに広げて理解を深めてください。		

授業科目名	一般臨床医学						
担当者	伊地 隆晴/ 金谷 文則/ 幸地 昭彦/ 高橋 智佐子/ 新川 武/ 仲村 保廣/ 馬 紹平/ 非常勤講師/ 武村						
開講年次	2年	開講期	2年前期,2年後期	授業回数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要)わが国は超高齢社会となり、内科的疾患をもつリハビリテーション対象者が急増している。内科的疾患の病態や老化現象を理解し、適切なリハビリテーションを行う上での基盤を築く。							
(到達目標) 内科的疾患の症候、診断学的手法について説明できる。 臓器や組織の解剖、生理機能について説明できる。 各疾患の概念、病態および老化現象について説明できる。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	医学一般総論・概論1			講義	金谷 文則		
2	医学一般総論・概論2			講義	金谷 文則		
3	循環器疾患1			講義	武村 克哉		
4	循環器疾患2			講義	武村 克哉		
5	代謝・内分泌疾患1			講義	非常勤講師		
6	代謝・内分泌疾患2			講義	非常勤講師		
7	呼吸器疾患1			講義	伊地 隆晴		
8	呼吸器疾患2			講義	馬 紹平		
9	腎・泌尿器疾患1			講義	金谷 文則		
10	腎・泌尿器疾患2			講義	金谷 文則		
11	膠原病・アレルギー疾患			講義	新川 武		
12	感染性疾患			講義	新川 武		
13	老年医学1			講義	幸地 昭彦		
14	老年医学2			講義	仲村 保廣		
15	皮膚疾患			講義	高橋 智佐子		
16	まとめ・試験			講義・試験			
期末試験(100)% 提出物()% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他() ()%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社			
標準理学療法学作業療法学専門分野 内科学				医学書院			
書名		著者		出版社			
参考書							
書名		著者		出版社			
病気が見える7 脳・神経				MEDIC MEDIA			
書名		著者		出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							

授業科目名	一般臨床医学						
担当者	非常勤講師						
開講年次	2年	開講期	2年前期,2年後期	授業回数	16	単位数	1
授業の概要・到達目標							
<p>(概要)骨格・運動器系疾患、中枢神経系疾患、血管性障害などについて、画像診断の特徴的な所見を学ぶ。 薬物の作用機序や投与方法、体内動態に関する基本的事項を理解したうえで、対象疾患に関連した薬物療法の考え方について学ぶ。 リハビリテーションでの機能回復を円滑に進めるためには、栄養状態が良好なことが必要である。そのために必要な栄養に関する基礎 (到達目標)レントゲン、CT、MRI画像から理学療法実施上の留意点について説明できる。 薬物の基本事項(作用機序、投与方法、体内動態など)、対象疾患に対する薬物療法について理解し説明できる。 摂食・嚥下障害、サルコペニアなどの主な病態の栄養療法についての知識を修得する。</p>							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
ほかの学生の学習機会を損なう行為(主に私語)を禁止する。 携帯電話等のカメラ機能を使用した黒板およびスライドの撮影を禁止する。 講義で配布する資料や文章等をインターネット上に公開することを禁止する。							
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者		
	画像診断の基礎			講義	非常勤講師		
	画像診断(各疾患の特徴的所見)			講義	非常勤講師		
	薬理学			講義	非常勤講師		
	薬理学			講義	非常勤講師		
	薬理学			講義	非常勤講師		
	薬理学			講義	非常勤講師		
	栄養学基礎 栄養素の役割			講義	非常勤講師		
	運動時の栄養 おもな病態の栄養療法(低栄養、摂食障害、嚥下障害、サルコペニア、ロコモティブシンドローム、メタボリックシンドローム)			講義	非常勤講師		
期末試験(100)% 提出物()% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他()()%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社			
書名		著者		出版社			
参考書							
書名		著者		出版社			
書名		著者		出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							



授業科目名	整形外科学						
担当者	翁長 正道/ 金城 英雄/ 金城 政樹/ 金城 忠克/ 山川 慶/ 上原 史成/ 神谷 武志/ 石原 昌人/ 大城 裕理						
開講年次	2年	開講期	2年前期,2年後期	授業回数	46	単位数	2
授業の概要・到達目標							
(概要)基礎から臨床まで幅広く整形外科を学ぶ。							
(到達目標) 運動器の構造を学ぶ。 運動器疾患の臨床を理解する。 得た知識をリハビリに活用できる。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	整形外科とは(歴史・診断・治療)			講義	当真 孝		
2	運動器疾患の診断法			講義	非常勤講師		
3	運動器の構造 (骨・軟骨の生理・構造)			講義	非常勤講師		
4	運動器の構造 (筋・神経・関節)			講義	非常勤講師		
5	運動器の治療法			講義	非常勤講師		
6	代謝性骨疾患(骨粗鬆症など)			講義	金城 英雄		
7	運動器(骨・関節・筋)の感染症			講義	非常勤講師		
8	関節リウマチ(類縁疾患)			講義	東 千夏		
9	慢性関節疾患(退行性・代謝性)			講義	翁長 正道		
10	外傷			講義	金城 忠克		
11	スポーツ整形外科			講義	上原 史成		
12	小児整形外科(総論)			講義	非常勤講師		
13	運動器疾患のリハビリテーション(総論)			講義	神谷 武志		
14	運動器疾患の理学療法			講義	長嶺 寛子		
15	中間まとめ・試験			講義・試験			
16	肩・上腕・肘			講義	金城 忠克		
17	前腕・手関節・手			講義	仲宗根 素子		
18	股関節			講義	仲宗根 哲		
19	膝関節			講義	比嘉 浩太郎		
20	足関節・足			講義	東 千夏		
21	末梢神経			講義	金城 政樹		
22	頸胸椎			講義	山川 慶		
23	腰椎			講義	島袋 孝尚		
24	脊髄損傷			講義	山川 慶		
25	小児整形外科(各論・変形矯正)			講義	神谷 武志		
26	運動器疾患のリハビリテーション(各論)			講義	非常勤講師		
27	外傷(上肢・小児の骨折)			講義	非常勤講師		
28	外傷(下肢・高齢者の骨折)			講義	石原 昌人		
29	骨軟部腫瘍(各論)			講義	大城 裕理		
30	期末まとめ・試験			講義・試験			
期末試験(50)% 提出物()% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他(中間試験)(50)%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社			
病気が見える Vol.11 運動器・整形外科 MEDIC MEDIA							
書名		著者		出版社			

参 考 書		
書 名	著 者	出 版 社
書 名	著 者	出 版 社
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）		

授業科目名	小児科学		
担当者	吉田 朝秀/ 兼次 拓也/ 呉屋 英樹/ 知念 安紹/ 仲村 貞郎/ 浜田 聡/ 浜田 和弥/ 名嘉山 賀子		
開講年次	2年	開講期	2年前期
		授業回数	20
		単位数	1
授業の概要・到達目標			
(概要) 小児の生理および疾患の病態を学ぶ。			
(到達目標) 小児の正常な身体発育、精神発達、予防接種、生活状況を理解できる。 小児の年齢差による特徴を理解できる。 小児の様々な疾患の概要を理解できる。			
履修における注意事項(受講ルールなど)			
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。			
回数	講義内容	方法 (講義・実技・演習)	担当者
1	小児科序論・新生児疾患	講義	吉田 朝秀
2	先天性疾患	講義	知念 安紹
3	呼吸器疾患・循環器疾患	講義	吉田 朝秀
4	消化器疾患	講義	呉屋 英樹
5	内分泌疾患	講義	兼次 拓也
6	膠原病・腎・アレルギー疾患	講義	浜田 和弥
7	神経・筋・運動器疾患	講義	仲村 貞郎
8	血液・悪性腫瘍	講義	浜田 聡
9	感染症	講義	名嘉山 賀子
10	まとめ・試験	講義・試験	
期末試験(100) % 提出物() % 小テスト() % 実技試験() % 口頭試問() % 発表() % その他() () % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。			
教科書			
	書名	著者	出版社
	小児看護(1)(2)/系統看護学講座		医学書院
	書名	著者	出版社
参考書			
	書名	著者	出版社
	書名	著者	出版社
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)			
講義に出席すること。 教科書の小児看護は、目をとめておくこと。 講義で使用したプリントや今までの問題を見直すこと。			

授業科目名	臨床心理学						
担当者	野村 学						
開講年次	1年	開講期	1年後期	授業回数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要)この講義では、臨床心理学の主要領域である「病理」、「心理査定」、「心理療法」を概観する。心の側面から人間を理解し、適応上の問題を解決する技法を学ぶ。							
(到達目標) 臨床心理学の基礎理論を理解する。 臨床心理学的における主要な診断方法を理解する。 臨床心理学的における主要な治療法とその枠組みを理解する。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
毎回、講義の始めに前回のまとめを兼ねたミニテストを実施する。 講義終了時に、ふり返しシートを記入し提出する。(意欲・関心として扱う。)							
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	臨床心理学とは?			講義	野村 学		
2	臨床心理学の基礎理論 人格理論			講義	野村 学		
3	臨床心理学の基礎理論 適応の理論			講義	野村 学		
4	心理臨床的諸問題・異常心理学			講義	野村 学		
5	臨床心理査定(アセスメント) 面接法・観察法			講義	野村 学		
6	臨床心理査定(アセスメント) 検査法*			講義	野村 学		
7	臨床心理査定(アセスメント) 検査法*			講義	野村 学		
8	臨床心理面接(心理療法) 精神分析療法			講義	野村 学		
9	臨床心理面接(心理療法) 行動療法・認知療法			講義	野村 学		
10	臨床心理面接(心理療法) クライアント中心療法			講義	野村 学		
11	臨床心理面接(心理療法) カウンセリングの基礎			講義	野村 学		
12	臨床心理面接(心理療法) 遊戯療法			講義	野村 学		
13	臨床心理面接(心理療法) 家族療法・集団療法			講義	野村 学		
14	臨床心理面接(心理療法) 芸術療法			講義	野村 学		
15	まとめ・試験			講義・試験	野村 学		
期末試験(70)% 提出物()% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表(15)% その他(意欲・関心)(15)% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社			
生きる力を育てる臨床心理学				教育情報出版			
書名		著者		出版社			
参考書							
書名		著者		出版社			
書名		著者		出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							

授業科目名	医学特論														
担当者	宮平 誠司														
開講年次	1年	開講期	1年前期	授業回数	16	単位数	1								
授業の概要・到達目標															
(概要) 命の大切さを理解し、患者さんの社会的背景を考慮しながら、個人にとって最善の医療を行えるスペシャリストを育成する。															
(到達目標) 自らすすんで勉強し、生涯学習の姿勢を身につける。 患者さんの身体を治すだけでなく、不安を取り除くことができる。 基本的な挨拶など、対人関係におけるマナーを身につけ、思いやりの心で接する。															
履修における注意事項(受講ルールなど)															
八キ八キと大きな声で返事し、皆に聞こえるように音読する。 私語は慎む。															
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。															
回数	講義内容					方法 (講義・実技・演習)	担当者								
1	人間の生命を考える					講義	宮平 誠司								
2	人間の生命を考える					講義	宮平 誠司								
3	病気の原因、病気による身体の変化					講義	宮平 誠司								
4	病気の原因、病気による身体の変化					講義	宮平 誠司								
5	病気の治療とリハビリテーション					講義	宮平 誠司								
6	病気の治療とリハビリテーション					講義	宮平 誠司								
7	医学および看護の生命へのアプローチ					講義	宮平 誠司								
8	医学および看護の生命へのアプローチ					講義	宮平 誠司								
9	まとめ・試験					講義・試験	宮平 誠司								
<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td>期末試験 (100) %</td> <td>提出物 () %</td> <td>小テスト () %</td> <td>実技試験 () %</td> </tr> <tr> <td>口頭試問 () %</td> <td>発表 () %</td> <td>その他 () () %</td> <td></td> </tr> </table>								期末試験 (100) %	提出物 () %	小テスト () %	実技試験 () %	口頭試問 () %	発表 () %	その他 () () %	
期末試験 (100) %	提出物 () %	小テスト () %	実技試験 () %												
口頭試問 () %	発表 () %	その他 () () %													
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。															
教科書															
書名		著者			出版社										
医学概論					医学書院										
書名		著者			出版社										
参考書															
書名		著者			出版社										
書名		著者			出版社										
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)															
復習に重点をおく。 講義の翌日までに教科書を読みなおす。															

授業科目名	老年期障害の臨床医学						
担当者	照屋 若夏						
開講年次	2年	開講期	2年後期	授業回数	16	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要)高齢者の加齢による生理的变化、老年期特有の障害について学び、リスク管理につなげる							
(到達目標) 老年期における生理的变化や罹りやすい疾患について理解する 老年期作業療法におけるリスクを管理し、緊急時の救命法を実施できる							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容					方法 (講義・実技・演習)	担当者
1	加齢の特徴・老化とは					講義	照屋 若夏
2	老年期に注意する症状(老年症候群 フレイル サルコペニア 廃用症候群など)					講義・演習	照屋 若夏
3	老年期に特徴的な疾患(骨粗鬆症 骨折 末梢循環器障害など)					講義	照屋 若夏
4	老年期に特徴的な疾患(認知症 老年期うつ せん妄など)					講義	照屋 若夏
5	リスク管理と救命法					講義	照屋 若夏
6	リスク管理と救命法					講義・演習	照屋 若夏
7	リスク管理と救命法					講義・演習	照屋 若夏
8	まとめ					講義・試験	照屋 若夏
期末試験(90)% 提出物(10)% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試験()% 発表()% その他() ()%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
	書名	著者				出版社	
高齢期作業療法学	第3版					医学書院	
	書名	著者				出版社	
参考書							
	書名	著者				出版社	
	書名	著者				出版社	
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							

授業科目名	基礎科目ゼミナール						
担当者	専任教員						
開講年次	2年	開講期	2年後期	授業回数	16	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要)臨床実践能力向上のため基礎知識と治療技術の基礎を理解する。							
(到達目標) 基礎分野を学び表現能力を身につける。 専門基礎分野を理解し、説明できる。 専門分野を理解し、臨床場面で実施できる。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容				方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	文章読解と表現				講義・演習	専任教員	
2	専門基礎科目(解剖学・生理学・運動学・精神医学など)				義・グループ演	専任教員	
3	専門基礎科目(解剖学・生理学・運動学・精神医学など)				義・グループ演	専任教員	
4	専門基礎科目(解剖学・生理学・運動学・精神医学など)				義・グループ演	専任教員	
5	専門科目(基礎～応用)				義・グループ演	専任教員	
6	専門科目(基礎～応用)				義・グループ演	専任教員	
7	専門科目(基礎～応用)				義・グループ演	専任教員	
8	まとめ・試験				試験	専任教員	
<p>期末試験()% 提出物(20)% 小テスト(60)% 実技試験()%</p> <p>口頭試問()% 発表(20)% その他() ()%</p> <p>ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。</p>							
教科書							
書名		著者			出版社		
教科書全般と配布資料							
書名		著者			出版社		
参考書							
書名		著者			出版社		
書名		著者			出版社		
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
持参すべき教科書および参考書はその都度指示する。							

授業科目名	リハビリテーション概論						
担当者	久高 将臣/ 専任教員/ 非常勤講師						
開講年次	1年	開講期	1年前期	授業回数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要)リハビリテーションの概念とそれらを具体化する医学的リハビリテーションの概要について、「全人的」視点から専門職として求められる姿とともに明らかにする。							
(到達目標) リハビリテーションの理念について説明できる。 医学的リハビリテーションの構成と展開について理解するとともに、チーム医療としての専門職の役割を説明できる。 我が国における医療・保健・福祉制度の概要を理解し、リハビリテーションとの関わりについて大まかに説明することができる。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
毎回、教科書持参してください							
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容				方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	リハビリテーションとは、その理念と哲学、医療・保健・福祉(A-1・2)				講義	久高 将臣	
2	リハビリテーションマインド・廃用症候群(A-3・4)				講義	久高 将臣	
3	病期とリハビリテーション(A-5・6)				講義	久高 将臣	
4	障害の構造と社会参加(A-7)				講義	久高 将臣	
5	チーム医療としてのリハビリテーション(A-8・9・10・12・13)				講義	久高 将臣	
6	チーム医療としてのリハビリテーション(言語聴覚士)				講義	専任教員	
7	チーム医療としてのリハビリテーション(介護福祉士)				講義	専任教員	
8	チーム医療としてのリハビリテーション(MSW)				講義	非常勤講師	
9	チーム医療・医学的リハビリテーションの展開				講義	久高 将臣	
10	評価(A-14・15・16)				講義	久高 将臣	
11	歩行・装具(A17・18)				講義	久高 将臣	
12	義足・車椅子・リハビリテーションロボティクス(A-19・20・21)				講義	久高 将臣	
13	医療・社会と法律(A-22)				講義	久高 将臣	
14	地域リハビリテーションと地域包括ケアシステム(A-23)				講義	久高 将臣	
15	まとめ				講義・試験	久高 将臣	
期末試験(100)% 提出物()% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他()()%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社			
リハビリテーション総論		椿原 彰夫		診断と治療社			
書名		著者		出版社			
参考書							
書名		著者		出版社			
書名		著者		出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
教科書の内容を中心にを行います。概念は漠然として理解しづらいかもしれませんが、言葉の意味をしっかりと捉えるようにすると分かりやすくなります。また、医療・福祉系の学科が集まる当学院の特徴を活かして、他職種の専門性も学んでいきましょう。							

授業科目名	リハビリテーション概論						
担当者	照屋 若夏/ 非常勤講師						
開講年次	2年	開講期	2年後期	授業回数	16	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要) 将来的な作業療法研究活動の基盤を作るため、作業療法研究における倫理の必要性と研究の成果を解釈し、適用していく方法を学ぶ、また、作業療法研究の方法を知る。 リハビリテーションチームと多職種連携について、体験的に学ぶ。							
(到達目標) 基本的な研究方法の知識を持ち、研究者倫理について説明できる 各職種の専門性について理解できる 各職種とコミュニケーションを取りながら症例の到達目標を設定できる							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容					方法 (講義・実技・演習)	担当者
1	基本的な研究方法について					講義	非常勤講師
2	研究者倫理について					講義	非常勤講師
3	作業療法学研究の方法					講義	非常勤講師
4	作業療法学研究の方法					講義	非常勤講師
5	チーム医療とコミュニケーション(症例を通して)					講義・演習	照屋 若夏
6	チーム医療とコミュニケーション(症例を通して)					講義・演習	照屋 若夏
7	多職種理解とチーム連携(症例を通して)					講義・演習	照屋 若夏
8	多職種理解とチーム連携(症例を通して)					講義・演習	照屋 若夏
<p>期末試験(50)% 提出物(40)% 小テスト()% 実技試験()%</p> <p>口頭試験()% 発表()% その他(出席・態度)(10)%</p> <p>ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。</p>							
教科書							
	書名	著者				出版社	
資料配布							
	書名	著者				出版社	
参考書							
	書名	著者				出版社	
	書名	著者				出版社	
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
多職種連携とチーム医療は、アクティブラーニングを用いて、実際の症例さんのデータをもとに話し合いながら目標設定していきます。研究法も含め、実習や臨床にでてからも大変役に立つ講義内容になっています。							

授業科目名	リハビリテーション医学						
担当者	渡名喜 良明						
開講年次	1年	開講期	1年後期	授業回数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要)疾患とそのリハビリテーションにつき、基本的な事項と概要の理解をすすめる。							
(到達目標)疾患とそのリハビリテーションの概要が理解できる。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	脳卒中			講義	渡名喜 良明		
2	脳卒中			講義	渡名喜 良明		
3	脳卒中			講義	渡名喜 良明		
4	脳卒中			講義	渡名喜 良明		
5	外傷性脳損傷			講義	渡名喜 良明		
6	パーキンソン症候群			講義	渡名喜 良明		
7	多発性硬化症・神経・筋疾患			講義	渡名喜 良明		
8	脊髄損傷			講義	渡名喜 良明		
9	四肢切断			講義	渡名喜 良明		
10	運動器・関節リウマチ			講義	渡名喜 良明		
11	慢性疼痛脳性麻痺			講義	渡名喜 良明		
12	心筋梗塞			講義	渡名喜 良明		
13	呼吸器			講義	渡名喜 良明		
14	生活習慣病			講義	渡名喜 良明		
15	まとめ・試験			講義・試験	渡名喜 良明		
期末試験(100)% 提出物()% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他()()% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社			
リハビリテーション総論				診断と治療社			
書名		著者		出版社			
参考書							
書名		著者		出版社			
書名		著者		出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
教科書中心に講義します。							

授業科目名	社会福祉学		
担当者	宮城 美智子		
開講年次	1年	開講期	1年前期
授業回数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標			
(概要)この講義は、人・社会・生活と福祉に関する知識と方法について学ぶことを目的とする。また、保健医療と福祉の連携についてもふれる。			
(到達目標) 現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。 福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解する。 福祉政策におけるニーズと資源について理解する。福祉政策の課題について理解する。 福祉政策の構成要素(福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割を含む)について理解する。 福祉政策と関連政策(教育政策・住宅政策・労働政策を含む)の関係について理解する。 相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。			
履修における注意事項(受講ルールなど)			
私語はつつむこと。			
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。			
回数	講義内容	方法 (講義・実技・演習)	担当者
1	オリエンテーション	講義	宮城 美智子
2	現代社会における福祉制度と福祉政策	講義	宮城 美智子
3	現代社会における福祉制度と福祉政策	講義	宮城 美智子
4	福祉の原理をめぐる理論と哲学	講義	宮城 美智子
5	福祉制度の発達過程	講義	宮城 美智子
6	福祉制度の発達過程	講義	宮城 美智子
7	福祉政策におけるニーズと資源	講義	宮城 美智子
8	福祉政策の課題	講義	宮城 美智子
9	福祉政策の課題	講義	宮城 美智子
10	福祉政策の構成要素	講義	宮城 美智子
11	福祉政策の構成要素	講義	宮城 美智子
12	福祉政策の構成要素	講義	宮城 美智子
13	福祉政策と関連政策	講義	宮城 美智子
14	相談援助活動と福祉政策	講義	宮城 美智子
15	まとめ・試験	講義・試験	宮城 美智子
期末試験(60)% 提出物(20)% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表(20)% その他()()% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。			
教科書			
書名	著者	出版社	
新・社会福祉養成講座 4		中央法規	
書名	著者	出版社	
現代社会と福祉			
参考書			
書名	著者	出版社	
書名	著者	出版社	
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)			
医療や福祉サービスを必要とする方がたの良き理解者となることを目指して、真摯な姿勢で学んでほしい。			

授業科目名	基礎作業学						
担当者	金城 盛長						
開講年次	1年	開講期	1年後期	授業回数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要) 沖縄伝統楽器・三線の基本的な知識と演奏法の指導。人の繋がりとその楽しさを伝える。							
(到達目標) 1. 三線の基礎知識やウチナー口の基本的な発音が身につく。 2. 歌三線の楽譜(工工四)クンシーが読めるようになる。 3. 歌三線の演奏ができるようになる。(学園祭での演奏発表など)							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	三線の基礎知識(三線の伝来・琉球音楽・三線の構造など)			講義	金城 盛長		
2	工工四の読み方・調弦の方法(チューナーの使い方)			講義	金城 盛長		
3	三線の基本的演奏法(撥の持ち方・右手の練習・構え方・左手の運指)			講義・演習	金城 盛長		
4	チューリップ・じんじん・押し壺 の練習・Happy Birthday to you!			講義・演習	金城 盛長		
5	発声練習・琉歌の読み方・ていんさぐぬ花(歌三線)			講義・演習	金城 盛長		
6	ていんさぐぬ花(歌)・安波節(歌)			講義・演習	金城 盛長		
7	ていんさぐぬ花(歌三線)・安波節(歌三線)			講義・演習	金城 盛長		
8	これまでの復習・肝がなさ節(歌)			講義・演習	金城 盛長		
9	ていんさぐぬ花(歌三線)・安波節(歌三線)・肝がなさ節(歌三線)			講義・演習	金城 盛長		
10	チューリップ・じんじん・ていんさぐぬ花・安波節・肝がなさ節(歌三線)			講義・演習	金城 盛長		
11	チューリップ・じんじん・ていんさぐぬ花・安波節・肝がなさ節(歌三線)			講義・演習	金城 盛長		
12	チューリップ・じんじん・ていんさぐぬ花・安波節・肝がなさ節(歌三線)			講義・演習	金城 盛長		
13	チューリップ・じんじん・ていんさぐぬ花・安波節・肝がなさ節(歌三線)			講義・演習	金城 盛長		
14	チューリップ・じんじん・ていんさぐぬ花・安波節・肝がなさ節(歌三線)			講義・演習	金城 盛長		
15	全期試験			試験	金城 盛長		
期末試験()% 提出物()% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表(100)% その他() ()%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社			
書名		著者		出版社			
参考書							
書名		著者		出版社			
書名		著者		出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							

授業科目名	基礎作業学							
担当者	玉村 康裕/ 小金澤 賢司							
開講年次	1年	開講期	1年前期,1年後期		授業回数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標								
(概要)作業活動を理解し、作業療法の基本的な治療技術を理解する								
(到達目標)体験した作業活動について特徴を理解する								
履修における注意事項(受講ルールなど)								
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。								
回数	講義内容				方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	作業学総論				講義	小金澤 賢司		
2	作業活動体験(籐細工)				実技	小金澤 賢司		
3	作業活動体験(籐細工)				実技	小金澤 賢司		
4	作業活動体験(籐細工)				実技	小金澤 賢司		
5	作業活動体験(籐細工)				実技	小金澤 賢司		
6	作業活動体験(陶芸)				実技	玉村 康裕		
7	作業活動体験(陶芸)				実技	玉村 康裕		
8	作業活動体験(陶芸)				実技	玉村 康裕		
9	作業活動体験(陶芸)				実技	玉村 康裕		
10	作業活動体験(陶芸)				実技	玉村 康裕		
11	作業活動体験(陶芸)				実技	玉村 康裕		
12	作業活動体験(陶芸)				実技	玉村 康裕		
13	作業活動体験(陶芸)				実技	玉村 康裕		
14	作業活動のまとめと理解				講義	小金澤 賢司		
15	まとめ				講義・試験	小金澤 賢司		
期末試験(80)% 提出物()% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他()()%								
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。								
教科書								
書名			著者			出版社		
ひとと作業・作業活動			山根寛			三輪書店		
書名			著者			出版社		
参考書								
書名			著者			出版社		
書名			著者			出版社		
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)								

授業科目名	基礎作業学						
担当者	照屋 盛之/ 金城 光政/ 福嶺 牧子						
開講年次	1年	開講期	1年前期	授業回数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要)作業活動を用いた基本的な支援、治療技術を理解する。							
(到達目標)作業活動の特徴及び作業活動と人との相互作用について説明できる。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
作業を実施する上で材料や道具の特性を事前に把握し怪我などの事故が起きないように管理すること。							
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	総論(作業活動、作業分析について)			講義	照屋 盛之		
2	マクラメ			演習	照屋 盛之		
3	マクラメ			演習	照屋 盛之		
4	木工			演習	照屋 盛之		
5	木工			演習	照屋 盛之		
6	革細工			演習	照屋 盛之		
7	革細工			演習	照屋 盛之		
8	造形表現活動			講義	金城 光政/ 福嶺 牧子		
9	造形表現活動			演習	金城 光政/ 福嶺 牧子		
10	造形表現活動			演習	金城 光政/ 福嶺 牧子		
11	造形表現活動			演習	金城 光政/ 福嶺 牧子		
12	造形表現活動			演習	金城 光政/ 福嶺 牧子		
13	造形表現活動			演習	金城 光政/ 福嶺 牧子		
14	造形表現活動			演習	金城 光政/ 福嶺 牧子		
15	まとめとテスト				照屋 盛之		
期末試験(50)% 提出物(50)% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他()()%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社			
ひとと作業・作業活動 新版		山根寛		三輪書店			
書名		著者		出版社			
参考書							
書名		著者		出版社			
作業学		長崎重信監修		メジカルビュー社			
書名		著者		出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
作品制作では、結果よりも過程(丁寧な取り組み、気づきが多い等)を求めます。							

授業科目名	基礎作業学						
担当者	崎原 幸枝/ 専任教員						
開講年次	1年	開講期	1年後期	授業回数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要)人が行う作業についての枠組み、意味や概念について理解を深める。							
(到達目標)1. 作業の意味を考え、自身の考えを説明することができる。 2. 作業療法で使われる理論について説明することができる。 3. 作業の分析方法を説明することができる。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
課題提出について、当日欠席により課題提出ができない場合は、事前に受け付けます。 講義中の飲食および携帯電話の使用は許可がない限り原則禁止です。 講義を遅刻、欠席する場合は学院に連絡し、書類を提出してください。							
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	作業療法と作業活動(総論)			講義	崎原 幸枝		
2	作業の意味・形態・機能(作業の見方)			講義	崎原 幸枝		
3	作業の力			講義/演習	専任教員/崎原 幸枝		
4	人の一生(発達)と作業			講義/演習	専任教員/崎原 幸枝		
5	作業の文脈			講義/演習	専任教員/崎原 幸枝		
6	作業と健康			講義/演習	専任教員/崎原 幸枝		
7	作業療法理論とその役割			講義/演習	専任教員/崎原 幸枝		
8	作業療法理論の特徴と種類(PEQ, OTIPM)			講義	崎原 幸枝		
9	作業療法理論の特徴と種類(MOHO, CMOP)			講義	崎原 幸枝		
10	作業分析とは			講義	崎原 幸枝		
11	包括的作業分析と限定的作業分析			講義	崎原 幸枝		
12	作業の利用と選択			講義	崎原 幸枝		
13	作業が活きる条件			講義	崎原 幸枝		
14	作業を介した関わり			講義	崎原 幸枝		
15	試験とまとめ				崎原 幸枝		
期末試験(50)% 提出物(40)% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他(出席、態度)(10)% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社			
ひとと作業・作業活動 第2版		山根 寛		三輪書店			
書名		著者		出版社			
参考書							
書名		著者		出版社			
作業って何だろう?作業科学入門 第2版		吉川 ひろみ		医歯薬出版			
書名		著者		出版社			
標準作業療法学 基礎作業学 第3版		濱口 豊太		医学書院			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
事前に提示された教科書あるいは資料で、わからない用語や語句は調べておいてください。							

授業科目名	作業療法特論						
担当者	専任教員/ 非常勤講師						
開講年次	3年	開講期	3年後期	授業回数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要)これまで学習してきた作業療法に関する知識・技術を整理する。							
(到達目標)作業療法に必要な知識・技術を説明できる。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
教科書は毎回変わりますので事前に案内します(1~2年で使用した教科書全てを保管しておいてください)。							
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)		担当者	
1	国家試験対策			講義		非常勤講師	
2	国家試験対策			講義		非常勤講師	
3	国家試験対策			講義・演習		専任教員	
4	国家試験対策			講義・演習		専任教員	
5	国家試験対策			講義・演習		専任教員	
6	国家試験対策			講義・演習		専任教員	
7	国家試験対策			講義・演習		専任教員	
8	国家試験対策			講義・演習		専任教員	
9	国家試験対策			講義・演習		専任教員	
10	国家試験対策			講義・演習		専任教員	
11	国家試験対策			講義・演習		専任教員	
12	国家試験対策			講義・演習		専任教員	
13	試験			講義・試験		専任教員	
14	試験			講義・試験		専任教員	
15	まとめ			講義・試験		専任教員	
期末試験(100)% 提出物()% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他()()%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者			出版社		
書名		著者			出版社		
参考書							
書名		著者			出版社		
書名		著者			出版社		
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							

授業科目名	作業療法概論						
担当者	照屋 盛之						
開講年次	1年	開講期	1年前期	授業回数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要)作業療法という専門領域、作業療法士という専門職を理解する。							
(到達目標)作業療法に関することについてその概要を説明することができる。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
課題提出について、欠席により課題提出ができない場合は、事前に受け付けますので担当講師に申し出てください。							
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)		担当者	
1	作業療法の定義、理学療法士及び作業療法士法			講義		照屋 盛之	
2	作業療法の歴史			講義		照屋 盛之	
3	作業療法の歴史			講義		照屋 盛之	
4	作業療法の歴史			講義		照屋 盛之	
5	作業療法の領域			講義		照屋 盛之	
6	作業療法の対象			講義		照屋 盛之	
7	作業療法のプロセス			講義		照屋 盛之	
8	作業療法における倫理			講義		照屋 盛之	
9	課題解決能力と学ぶ姿勢			講義		照屋 盛之	
10	根拠に基づいた作業療法			講義		照屋 盛之	
11	社会における作業療法士の役割			講義		照屋 盛之	
12	作業療法の実際			演習		照屋 盛之	
13	作業療法の実際			演習		照屋 盛之	
14	作業療法の実際			演習		照屋 盛之	
15	まとめとテスト					照屋 盛之	
期末試験(60)% 提出物(20)% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試験()% 発表(20)% その他() ()%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社			
作業療法学概論 第3版		二木淑子、能登真一 他		医学書院			
書名		著者		出版社			
参考書							
書名		著者		出版社			
作業療法概論 改訂第3版		杉原素子編集		協同医書出版			
書名		著者		出版社			
作業療法学概論 改訂第2版		里村恵子編集		メジカルビュー社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
教科書や配布資料、その他の文献を積極的に読んでほしいと思います。							

授業科目名	作業療法管理学						
担当者	小金澤 賢司/ 嘉数 栄司						
開講年次	1年	開講期	1年前期	授業回数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要)作業療法の機能の質と安全性を理解する							
(到達目標)医療上の事故等を理解し、安全を確保することができる							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	オリエンテーション マネジメントとは			講義	小金澤 賢司		
2	組織の管理運営と作業療法士の役割			講義	小金澤 賢司		
3	情報の取り扱い			講義	小金澤 賢司		
4	サービスとは			講義	小金澤 賢司		
5	医療安全と医療事故			講義	小金澤 賢司		
6	作業療法業務のマネジメント			講義	小金澤 賢司		
7	作業療法業務のマネジメント			講義	小金澤 賢司		
8	作業療法部門の業務管理			講義	小金澤 賢司		
9	作業療法をとりまく法律 職能団体の役割			講義	小金澤 賢司		
10	倫理 インフォームド・コンセント			講義	小金澤 賢司		
11	医療保険			講義	嘉数 栄司		
12	臨床実習			講義	小金澤 賢司		
13	研究法			講義	嘉数 栄司		
14	ワークライフバランス 働き方			講義	小金澤 賢司		
15	まとめ			講義	小金澤 賢司		
期末試験(80)% 提出物(20)% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試験()% 発表()% その他()()% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社			
作業療法管理学入門		大庭潤平		医歯薬出版			
書名		著者		出版社			
参考書							
書名		著者		出版社			
書名		著者		出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							

授業科目名	作業療法評価						
担当者	崎原 幸枝/ 山城 峻						
開講年次	1年	開講期	1年前期	授業回数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要)作業療法における評価の基礎知識ならびに必要性について学ぶ。 意識、バイタルサイン、生体の観察、身体計測の基礎知識・計測技術を学ぶ。							
(到達目標)1.作業療法における評価の必要性と意義について理解する。 2.身体計測を実施できるようになるために、生体の観察と触察方法について理解する。 3.身体機能障害を有する患者の作業療法評価を実施できるようになるために、形態測定法を習得する。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
演習の際は動きやすい服装をすること。							
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	作業療法評価の意義と目的			講義	山城 峻		
2	作業療法評価の手順と手段			講義	山城 峻		
3	面接・観察法			講義	崎原 幸枝		
4	面接・観察法			講義	崎原 幸枝		
5	面接・観察法			講義	崎原 幸枝		
6	国際生活機能分類(ICF)			講義	山城 峻		
7	意識状態の評価			講義・演習	山城 峻		
8	バイタルサインの測定			講義・演習	山城 峻		
9	バイタルサインの測定			講義・演習	山城 峻		
10	体表解剖の観察と触診			講義・演習	山城 峻		
11	体表解剖の観察と触診			講義・演習	山城 峻		
12	形態測定の意味と目的			講義・演習	山城 峻		
13	形態測定法(四肢長計測法)			講義・演習	山城 峻		
14	形態測定法(四肢周径計測法)			講義・演習	山城 峻		
15	試験			試験	山城 峻		
期末試験(100)% 提出物()% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他()()%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社			
標準作業療法学	作業療法評価学	岩崎テル子他		医学書院			
書名		著者		出版社			
参考書							
書名		著者		出版社			
書名		著者		出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							

授業科目名	作業療法評価						
担当者	富盛 真太郎						
開講年次	1年	開講期	1年後期	授業回数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要) 感覚・反射・筋緊張の評価の目的および方法を学び、各検査方法実施できるよう学習する。							
(到達目標) 1) 解剖学・生理学・運動学の観点から感覚・反射・筋緊張を理解する。 2) 感覚・反射・筋緊張のメカニズムを説明できる。 3) 感覚・反射・筋緊張の評価を実施できる。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	感覚評価の意義と目的・知覚障害による日常生活での問題			講義	富盛 真太郎		
2	感覚・知覚の分類、モダリティ、受容器、感覚神経伝導路			講義	富盛 真太郎		
3	末梢神経損傷と中枢神経疾患による知覚障害の違い			講義	富盛 真太郎		
4	感覚検査の実際(一般的注意)			講義・演習	富盛 真太郎		
5	感覚検査法(静的触覚検査・動的触覚検査)			講義・演習	富盛 真太郎		
6	感覚検査法(静的・動的二点識別検査)			講義・演習	富盛 真太郎		
7	感覚検査法(痛覚・温度覚検査)			講義・演習	富盛 真太郎		
8	感覚検査法(関節覚検査・深部知覚)			講義・演習	富盛 真太郎		
9	反射評価の意義と目的			講義	富盛 真太郎		
10	反射の生理学的メカニズム			講義・演習	富盛 真太郎		
11	深部腱反射・表在反射・病的反射の検査法			講義・演習	富盛 真太郎		
12	筋緊張検査の意義と目的			講義	富盛 真太郎		
13	筋緊張の異常(痙性と固縮、錐体路障害と錐体外路障害)			講義	富盛 真太郎		
14	筋緊張の検査			講義・演習	富盛 真太郎		
15	まとめ			試験	富盛 真太郎		
期末試験(100)% 提出物()% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他()()%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社			
標準作業療法専門分野 身体機能作業療法学 第3版		編集：山口昇、玉垣努		医学書院			
書名		著者		出版社			
参考書							
書名		著者		出版社			
書名		著者		出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							

授業科目名	作業療法評価							
担当者	山城 峻							
開講年次	1年	開講期	1年前期,1年後期		授業回数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標								
(概要)作業療法における評価の基礎知識ならびに必要性について学ぶ。 関節可動域測定法、徒手筋力検査法の基礎知識・検査技術を学ぶ。								
(到達目標)1.身体機能障害を有する患者の作業療法評価を実施できるようになるために、関節可動域測定法を習得する。 2.身体機能障害を有する患者の評価と治療を実施できるようになるために、徒手筋力検査法を習得する。								
履修における注意事項(受講ルールなど)								
演習の際は動きやすい服装をすること。								
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。								
回数	講義内容				方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	関節可動域測定の意義と目的				講義	山城 峻		
2	関節可動域測定法(肩関節・肘関節)				演習	山城 峻		
3	関節可動域測定法(前腕・手関節・指関節)				演習	山城 峻		
4	関節可動域測定法(股関節)				演習	山城 峻		
5	関節可動域測定法(膝関節・足関節)				演習	山城 峻		
6	関節可動域測定法(頸部・体幹)				演習	山城 峻		
7	関節可動域測定法の治療への示唆				講義	山城 峻		
8	徒手筋力検査法の意義と原理				講義	山城 峻		
9	徒手筋力検査法(上肢の筋力テスト1)				演習	山城 峻		
10	徒手筋力検査法(上肢の筋力テスト2)				演習	山城 峻		
11	徒手筋力検査法(下肢の筋力テスト1)				演習	山城 峻		
12	徒手筋力検査法(下肢の筋力テスト2)				演習	山城 峻		
13	徒手筋力検査法(頸部・体幹筋の筋力テスト1)				演習	山城 峻		
14	徒手筋力検査法の治療への示唆				講義	山城 峻		
15	試験				試験	山城 峻		
期末試験(100)% 提出物()% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他()()%								
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。								
教科書								
書名		著者			出版社			
標準作業療法学	作業療法評価学	岩崎テル子他			医学書院			
書名		著者			出版社			
参考書								
書名		著者			出版社			
書名		著者			出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)								

授業科目名	作業療法評価						
担当者	古川 宗宏						
開講年次	1年	開講期	1年後期	授業回数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要) 協調運動・バランス機能・上肢機能について、その生理学的機構や機能を学ぶ。また、これらを理解するとともに検査方法について学び、実践の場で実施できるようにする。							
(到達目標) 協調運動障害の生理学的機構とその評価について理解し、実施できる。 バランス機能を理解し、その評価について実施できる。 上肢機能を理解し、その評価について実施できる。 脳神経の生理学的機構とその評価について理解し、実施できる							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	協調運動の解剖学的・生理学的基礎			講義	古川 宗宏		
2	協調運動の分類			講義	古川 宗宏		
3	協調運動障害の検査法			講義	古川 宗宏		
4	協調運動障害の検査法			実技	古川 宗宏		
5	協調運動障害の検査法			実技	古川 宗宏		
6	上肢機能の捉え方			講義	古川 宗宏		
7	上肢機能の検査法			実技	古川 宗宏		
8	バランス機能の捉え方(反射階層的)			講義	古川 宗宏		
9	バランス機能の捉え方(生体力学的)			講義	古川 宗宏		
10	バランスの検査法			実技	古川 宗宏		
11	脳神経の解剖学的・生理学的基礎			講義	古川 宗宏		
12	脳神経の検査法			実技	古川 宗宏		
13	検査の組み立てと実施(症例を通して)			演習・実技	古川 宗宏		
14	検査の組み立てと実施(症例を通して)			演習・実技	古川 宗宏		
15	まとめ			講義・試験	古川 宗宏		
期末試験(100)% 提出物()% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他()()%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社			
標準作業療法学専門分野作業療法評価学				医学書院			
書名		著者		出版社			
参考書							
書名		著者		出版社			
書名		著者		出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							

授業科目名	作業療法評価						
担当者	照屋 若夏						
開講年次	2年	開講期	2年前期	授業回数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要) 高次脳機能障害のメカニズムを理解し、その評価方法(神経心理学的検査含む)を実践できるようにする。							
(到達目標) 脳損傷と高次脳機能障害の概念・発生機序が理解できる。 高次脳機能障害の各症状について理解し、評価方法を述べるができる。 高次脳機能障害の各症状について評価を選択し、実施できる。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	脳の働きと高次脳機能障害			講義	照屋 若夏		
2	失語症の概念と評価			講義	照屋 若夏		
3	失認と関連症状の概念			講義	照屋 若夏		
4	失認と関連症状の評価			講義・演習	照屋 若夏		
5	失行・行為障害の概念			講義	照屋 若夏		
6	失行・行為障害の評価			講義・演習	照屋 若夏		
7	無視症候群・空間性障害の概念			講義	照屋 若夏		
8	無視症候群・空間性障害の評価			講義・演習	照屋 若夏		
9	注意障害の概念			講義	照屋 若夏		
10	注意障害の評価			講義・演習	照屋 若夏		
11	記憶障害の概念			講義	照屋 若夏		
12	記憶障害の評価			講義・演習	照屋 若夏		
13	遂行機能障害と社会行動障害の概念			講義	照屋 若夏		
14	遂行機能障害と社会行動障害の評価			講義・演習	照屋 若夏		
15	まとめ			講義・試験	照屋 若夏		
期末試験(100)% 提出物()% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他()()%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社			
高次脳機能障害学		石合 純夫		医歯薬出版株式会社			
書名		著者		出版社			
参考書							
書名		著者		出版社			
病期がみえる 脳・神経				メディックメディア			
書名		著者		出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
記憶することが多いですが、臨床がイメージできるととても楽しい分野です。そのために調べてもらったり、動画をみたり、臨床の話をしながらすすめていきます。わからないことがあれば気軽に質問してください。わからないことを積み残さないようにしましょう!							

授業科目名	作業療法評価						
担当者	崎原 幸枝						
開講年次	2年	開講期	2年前期	授業回数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要)精神科作業療法が対象とする疾患を持つ対象者の理解について、具体的な方法と考え方を学ぶ							
(到達目標)1.精神科作業療法の進め方を説明することができる 2.評価の目的と手順を具体的に説明することができる 3.評価過程と評価結果のまとめ方を説明することができる							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
課題提出について、当日欠席により課題提出ができない場合は、事前に受け付けます。 講義中の飲食および携帯電話の使用は許可が無い限り原則禁止です。 講義を遅刻、欠席する場合は学院に連絡し、書類を提出してください							
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	精神科作業療法に必要な精神医学的知識			講義	崎原 幸枝		
2	精神科作業療法の進め方と評価の位置づけ			講義	崎原 幸枝		
3	対象者の理解(正常と異常、疾病性と事例性)			講義	崎原 幸枝		
4	対象者の理解(作業的存在としての人間理解)			講義	崎原 幸枝		
5	対象者理解のための評価方法と内容			講義	崎原 幸枝		
6	対象者理解のための評価手段と分類			講義	崎原 幸枝		
7	評価の計画と実施			講義	崎原 幸枝		
8	対象者理解のための情報収集(生活習慣と生活のバランス)			講義	崎原 幸枝		
9	対象者理解のための情報収集(興味関心)			講義	崎原 幸枝		
10	対象者理解のための情報収集(役割と生きがい)			講義	崎原 幸枝		
11	対象者理解のための情報収集(環境)			講義	崎原 幸枝		
12	全体像の統合と解釈			講義	崎原 幸枝		
13	生活の質を改善するための作業の利用法			講義	崎原 幸枝		
14	目標設定と治療計画の立案			講義	崎原 幸枝		
15	試験とまとめ				崎原 幸枝		
期末試験(50)% 提出物(20)% 小テスト(20)% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他(出席、態度)(10)%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社			
作業療法学全書 精神障害		日本作業療法士協会		協同医書			
書名		著者		出版社			
精神障害の作業療法 新版		山根 寛		三輪書店			
参考書							
書名		著者		出版社			
標準作業療法学 精神機能作業療法学 第2版		小林夏子 他		医学書院			
書名		著者		出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
事前に提示された教科書あるいは資料で、わからない用語や語句は調べておいてください。							

授業科目名	身体障害の作業療法						
担当者	富盛 真太郎						
開講年次	2年	開講期	2年前期	授業回数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要) 1. 身体障害領域の各疾患の障害像について学ぶ。 2. 障害像をもとに検査・測定について学び、評価から治療・訓練・指導までを学ぶ。 3. 作業療法的視点で広げ、繋げることを学習する。							
(到達目標) 1) 各時期別リハのリスク管理を整理することができる。 2) 各時期別リハの作業療法の特徴を説明できる。 3) ICFと利用してCVA患者の全体像を整理できる。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
特になし							
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)		担当者	
	脳血管障害の分類・病態理解			講義		富盛 真太郎	
	中枢性麻痺 中枢性麻痺と末梢性麻痺の違い			講義・演習		富盛 真太郎	
	片麻痺機能検査			講義・演習		富盛 真太郎	
	片麻痺機能検査 実技			実技		富盛 真太郎	
	運動学習、筋緊張とは			講義・演習		富盛 真太郎	
	CVAのリハビリの流れ			講義・演習		富盛 真太郎	
	急性期			講義		富盛 真太郎	
	回復期			講義		富盛 真太郎	
	維持期			講義		富盛 真太郎	
	リスク管理			講義		富盛 真太郎	
	リスク管理			講義・演習		富盛 真太郎	
	リスク管理			講義・演習		富盛 真太郎	
	ICF作成			講義・演習		富盛 真太郎	
	ICF作成			講義・演習		富盛 真太郎	
	まとめ			試験		富盛 真太郎	
期末試験(50)% 提出物(20)% 小テスト(10)% 実技試験()% 口頭試問()% 発表(20)% その他()()%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社			
標準作業療法専門分野 身体機能作業療法学 第3版		編集：山口昇、玉垣努		医学書院			
書名		著者		出版社			
参考書							
書名		著者		出版社			
書名		著者		出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							

授業科目名	身体障害の作業療法						
担当者	古川 宗宏						
開講年次	2年	開講期	2年後期	授業回数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要)神経変性疾患の障害像について学び、評価から治療・訓練・指導までの一連の流れを作業療法的視点で広げ、繋げることを学習する。							
(到達目標) 神経変性疾患別の病態やリスクについて理解し、説明できる。 病態および病期別の評価方法を理解し、説明できる。 各疾患の作業療法の特徴を理解し、説明できる。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	神経変性疾患について			講義	古川 宗宏		
2	パーキンソン病の病態(疾患特性)			講義	古川 宗宏		
3	パーキンソン病の病態(疾患特性)			講義	古川 宗宏		
4	パーキンソン病の評価とICF			講義	古川 宗宏		
5	パーキンソン病の治療			講義	古川 宗宏		
6	パーキンソン病の訓練・指導			講義・演習	古川 宗宏		
7	筋萎縮性側索硬化症の病態(疾患特性)			講義	古川 宗宏		
8	筋萎縮性側索硬化症の評価とICF			講義	古川 宗宏		
9	筋萎縮性側索硬化症の治療			講義	古川 宗宏		
10	筋萎縮性側索硬化症の訓練・指導			講義・演習	古川 宗宏		
11	脊髄小脳変性症の病態(疾患特性)			講義	古川 宗宏		
12	脊髄小脳変性症の評価とICF			講義	古川 宗宏		
13	脊髄小脳変性症の治療			講義	古川 宗宏		
14	脊髄小脳変性症の訓練・指導			講義・演習	古川 宗宏		
15	まとめ			講義・試験	古川 宗宏		
期末試験(100)% 提出物()% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他()()%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社			
身体機能作業療法学 第3版				医学書院			
書名		著者		出版社			
参考書							
書名		著者		出版社			
病気がみえる7脳神経				MEDIC MEDIA			
書名		著者		出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							

授業科目名	身体障害の作業療法						
担当者	吉岡 美和						
開講年次	2年	開講期	2年前期	授業回数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要)内部疾患障害に対する作業療法の必要性を理解し、治療に必要な医学的知識とリスク管理および安全な作業療法の実施方法について学習する。							
(到達目標)解剖学・生理学・運動学の観点から内部疾患を理解する 内部疾患の症状の特徴を説明できる 内部疾患による生活障害を説明できる							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)		担当者	
1	内部疾患の作業療法概論					吉岡 美和	
1	糖尿病の作業療法(機能解剖と症状の理解)					吉岡 美和	
1	糖尿病の作業療法(評価と理解)			講義		吉岡 美和	
1	循環器疾患の作業療法(機能解剖と症状の理解)			講義		吉岡 美和	
1	循環器疾患の作業療法(評価と治療)			講義		吉岡 美和	
1	呼吸器疾患の作業療法(機能解剖と症状の理解)			講義			
1	呼吸器疾患の作業療法(評価と治療)			講義			
1	吸引の基礎知識と技術1			講義			
1	吸引の基礎知識と技術2			演習			
1	吸引の基礎知識と技術3			演習			
1	がんの作業療法(基礎知識)			講義		吉岡 美和	
1	がんの作業療法(評価と治療)			講義・演習		吉岡 美和	
1	終末期の作業療法			講義		吉岡 美和	
1	内部疾患と遂行機能および生活の質			講義		吉岡 美和	
1	試験			試験		吉岡 美和	
期末試験(70)% 提出物()% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表(15)% その他(GWへの参加)(15)% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社			
標準作業療法学専門分野 身体機能作業療法学 第3版				医学書院			
書名		著者		出版社			
参考書							
書名		著者		出版社			
書名		著者		出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							

授業科目名	身体障害の作業療法						
担当者	山城 峻						
開講年次	2年	開講期	2年前期,2年後期	授業回数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要) 脊髄損傷・関節リウマチ・排尿排便障害の作業療法アプローチについて理解する。 障害像を元に検査・測定について学び、評価から治療・訓練・指導までの一連の流れを作業療法の視点で広げ、つなげることが出来る。							
(到達目標) 1.脊髄損傷・関節リウマチの障害像を説明できる 2.泌尿器疾患の障害像を説明できる 3.障害像に基づいた作業療法評価、アプローチを列挙できる							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	脊髄損傷とは			講義	山城 峻		
2	医学的治療と作業療法			講義	山城 峻		
3	神経症状(運動麻痺・感覚麻痺)			講義	山城 峻		
4	神経症状(自律神経症状)			講義	山城 峻		
5	合併症・併発症・心理状態			講義	山城 峻		
6	作業療法評価			講義	山城 峻		
7	機能レベル別作業療法			講義	山城 峻		
8	機能レベル別作業療法			講義	山城 峻		
9	下部尿路機能障害・排便障害(機能解剖と症状の理解)			講義	山城 峻		
10	下部尿路機能障害・排便障害(評価と治療)			講義	山城 峻		
11	関節リウマチ RAの臨床症状について			講義	山城 峻		
12	RAの関節症状について			講義	山城 峻		
13	RAの作業療法評価			講義	山城 峻		
14	RAの作業療法アプローチ			講義	山城 峻		
15	試験			試験	山城 峻		
期末試験(100)% 提出物()% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他()()%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社			
病気が見える Vol.11 運動器・整形外科				MEDIC MEDIA			
書名		著者		出版社			
参考書							
書名		著者		出版社			
書名		著者		出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							

授業科目名	身体障害の作業療法						
担当者	山城 峻						
開講年次	2年	開講期	2年後期	授業回数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要)身体障害領域の各疾患の障害像について学ぶ。 障害像を元に検査測定について学び、評価から治療・訓練・指導までの一連の流れを作業療法の視点で広げ、つながることを学習する。							
(到達目標)1.手外科領域患者の作業療法を臨床で実践できるために、必要な基礎知識および技術を理解する。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	手外科(総論)			講義	山城 峻		
2	手の機能解剖			講義	山城 峻		
3	Hand rehabirllitationの目的、作業療法の役割、評価			講義	山城 峻		
4	骨関節疾患			講義	山城 峻		
5	骨関節疾患			講義	山城 峻		
6	骨関節疾患			講義	山城 峻		
7	末梢神経障害			講義	山城 峻		
8	末梢神経障害			講義	山城 峻		
9	末梢神経障害			講義	山城 峻		
10	腱損傷			講義	山城 峻		
11	腱損傷			講義	山城 峻		
12	熱傷			講義	山城 峻		
13	熱傷			講義	山城 峻		
14	その他整形外科疾患			講義	山城 峻		
15	試験			試験	山城 峻		
期末試験(100)% 提出物()% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他()()%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社			
病気が見えるVol.11運動器・整形外科				MEDIC MEDIA			
書名		著者		出版社			
参考書							
書名		著者		出版社			
書名		著者		出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							

授業科目名	身体障害の作業療法						
担当者	吉岡 美和						
開講年次	2年	開講期	2年後期	授業回数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要) 神経筋疾患・難病の障害像を知り、必要な評価・治療を実施するための医学的知識と技術を学び、回復が困難な場合においても作業療法士として対象者の生活にどのように関わることができるか学習する。							
(到達目標) 神経・筋の疾患による症状と生活障害のつながりを説明できる 対象者を理解するために必要な評価項目を列挙・実施できる 生活障害改善のための治療プログラムを列挙できる							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容					方法 (講義・実技・演習)	担当者
	神経筋疾患総論、分類						吉岡 美和
	変性疾患・脱髄性疾患の理解						吉岡 美和
	Guillain-Barreおよび重症筋無力症の作業療法						吉岡 美和
	多発性硬化症および多発性筋炎の作業療法						吉岡 美和
	進行性筋ジストロフィー症および筋緊張性ジストロフィー症の作業療法						吉岡 美和
	廃用症候群・過用症候群・全身管理の理解と治療						吉岡 美和
	リスク管理を理解する						吉岡 美和
	在宅療養の環境管理						吉岡 美和
	事例検討(ICFの理解)						吉岡 美和
	事例検討(ICFの理解)						吉岡 美和
	事例検討(ICFの理解)						吉岡 美和
	事例検討(作業療法を理解する)						吉岡 美和
	事例検討(作業療法を理解する)						吉岡 美和
	神経筋疾患に対する作業療法介入						吉岡 美和
	試験						吉岡 美和
期末試験(80)% 提出物()% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表(10)% その他(GW参加状況)(10)% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者			出版社		
病気がみえる 7 脳・神経					MEDIC MEDIA		
書名		著者			出版社		
参考書							
書名		著者			出版社		
標準作業療法学専門分野 身体機能作業療法学 第3版					医学書院		
書名		著者			出版社		
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							

授業科目名	精神障害の作業療法						
担当者	崎原 幸枝/ 照屋 盛之						
開講年次	2年	開講期	2年前期	授業回数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要)精神科作業療法の役割や基本的な実践過程を学ぶ。 精神障害を持つ対象者を理解するための基本的な知識と支援のための基礎理論を学ぶ。							
(到達目標)1.精神障害に対する作業療法の役割や歴史概略を説明できる。 2.作業療法の基本的実践過程を説明できる。 3.精神科作業療法の基礎理論を説明することができる。 4.対象者理解のための情報収集の内容について説明できる。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
課題提出について、当日欠席により課題提出ができない場合は、事前に受け付けます。 講義中の飲食および携帯電話の使用は原則禁止です。 講義を遅刻、欠席する場合は学院に連絡し、書類を提出してください。							
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	精神障害に対する作業療法の基本的な理念と役割			講義	照屋 盛之		
2	精神障害に対する作業療法の歴史			講義	照屋 盛之		
3	作業療法の基本的な視点と方法			講義	照屋 盛之		
4	作業療法の基本的な視点と方法			講義	照屋 盛之		
5	作業療法の構造と要素			講義	照屋 盛之		
6	作業療法の構造と要素			講義	照屋 盛之		
7	作業療法の実践過程			講義	照屋 盛之		
8	精神科作業療法の基礎理論(共通理論)			講義	崎原 幸枝		
9	精神科作業療法の基礎理論(精神力動、集団力動)			講義	崎原 幸枝		
10	治療集団と作業療法			講義	崎原 幸枝		
11	人と作業理論(フィドラー、モゼイ、ライリー、キールホフナー)			講義	崎原 幸枝		
12	人と作業理論(人間作業モデル)			講義	崎原 幸枝		
13	対象者理解のための情報収集(価値観)			講義	崎原 幸枝		
14	対象者理解のための情報収集(作業遂行)			講義	崎原 幸枝		
15	まとめとテスト				照屋 盛之		
期末試験()% 提出物(20)% 小テスト(80)% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他() ()%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社			
精神障害と作業療法 新版		山根寛		三輪書店			
書名		著者		出版社			
作業療法学全書 精神障害		日本作業療法士協会		協同医書			
参考書							
書名		著者		出版社			
現代臨床精神医学		大熊輝雄		金原出版			
書名		著者		出版社			
精神疾患の理解と精神科作業療法 第3版		堀田英樹 他		中央法規			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
教科書、授業で紹介する関連資料を積極的に読んで理解を深めるようにしてください。							

授業科目名	精神障害の作業療法						
担当者	崎原 幸枝/ 照屋 盛之						
開講年次	2年	開講期	2年前期	授業回数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要) 各疾患に対する評価方法と実践の枠組みを理解する。							
(到達目標) 1. 評価方法とその内容について説明できる。 2. 各疾患の特徴に応じた目標が説明できる。 3. 各疾患に応じた治療、援助の内容を説明できる。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
課題提出について、当日欠席により課題提出ができない場合は、事前に受け付けます。 講義中の飲食および携帯電話の使用は許可が無い限り原則禁止です。 講義を遅刻、欠席する場合は学院に連絡し、書類を提出してください							
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容				方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	統合失調症における作業療法(疾患特性)				講義	照屋 盛之	
2	統合失調症における作業療法(回復過程)				講義	照屋 盛之	
3	統合失調症における作業療法(評価)				講義	照屋 盛之	
4	統合失調症における作業療法(評価)				講義	照屋 盛之	
5	統合失調症における作業療法(支援、治療)				講義	照屋 盛之	
6	統合失調症における作業療法(支援、治療)				講義	照屋 盛之	
7	統合失調症における作業療法(事例検討)				講義	照屋 盛之	
8	認知症における作業療法(疾患特性)				講義	崎原 幸枝	
9	認知症における作業療法(疾患特性)				講義	崎原 幸枝	
10	認知症における作業療法(評価)				講義	崎原 幸枝	
11	認知症における作業療法(評価)				講義	崎原 幸枝	
12	認知症における作業療法(支援と治療)				講義	崎原 幸枝	
13	認知症における作業療法(支援と治療)				講義	崎原 幸枝	
14	認知症における作業療法(事例検討)				講義	崎原 幸枝	
15	試験とまとめ					崎原 幸枝	
期末試験(60)% 提出物(20)% 小テスト(10)% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他(出席、態度)(10)%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者			出版社		
精神障害と作業療法 新版		山根 寛			三輪書店		
書名		著者			出版社		
作業療法全書 精神障害		日本作業療法士協会			協同医書		
参考書							
書名		著者			出版社		
生活を支援する 精神障害作業療法 第2版		香山明美、小林正義、鶴見隆彦			医歯薬出版		
書名		著者			出版社		
高齢者のその人らしさを捉える作業療法		藪脇健司、藤本一博			文光堂		
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
事前に提示された教科書あるいは資料で、わからない用語や語句は調べておくこと。							

授業科目名	精神障害の作業療法						
担当者	小金澤 賢司						
開講年次	2年	開講期	2年前期	授業回数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要)各疾患の障害特性を学び、作業療法の治療構造を学ぶ							
(到達目標)作業療法士の治療的役割を理解する							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	気分障害における作業療法 (疾患特性)			講義	小金澤 賢司		
2	気分障害における作業療法 (生活環境と評価)			講義	小金澤 賢司		
3	気分障害における作業療法 (評価のまとめ)			講義	小金澤 賢司		
4	気分障害における作業療法 (治療・事例検討)			講義	小金澤 賢司		
5	神経症性障害における作業療法 (疾患特性)			講義	小金澤 賢司		
6	神経症性障害における作業療法 (生活環境と評価)			講義	小金澤 賢司		
7	神経症性障害における作業療法 (評価のまとめ)			講義	小金澤 賢司		
8	神経症性障害における作業療法 (治療・事例検討)			講義	小金澤 賢司		
9	人格障害における作業療法 (疾患特性)			講義	小金澤 賢司		
10	人格障害における作業療法 (生活環境と評価)			講義	小金澤 賢司		
11	人格障害における作業療法 (評価のまとめと治療・事例検討)			講義	小金澤 賢司		
12	司法精神科作業療法			講義	小金澤 賢司		
13	医療観察法			講義	小金澤 賢司		
14	音楽療法			実技	小金澤 賢司		
15	まとめ			講義・試験	小金澤 賢司		
期末試験(80)% 提出物(20)% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他()()% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社			
現代臨床精神医学		大熊輝雄		金原出版			
書名		著者		出版社			
参考書							
書名		著者		出版社			
作業治療学2 精神障害		日本作業療法士協会監修		協同医書出版社			
書名		著者		出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							

授業科目名	精神障害の作業療法						
担当者	崎原 幸枝/ 照屋 若夏						
開講年次	2年	開講期	2年後期	授業回数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要) 各疾患に対する評価方法と実践の枠組みを理解する。							
(到達目標) 1. 評価方法とその内容について説明できる。 2. 各疾患の特徴に応じた目標が説明できる。 3. 各疾患に応じた支援、治療について説明できる。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
課題提出について、当日欠席により課題提出ができない場合は、事前に受け付けます。 講義中の飲食および携帯電話の使用は許可が無い限り原則禁止です。 講義を遅刻、欠席する場合は学院に連絡し、書類を提出してください							
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	退院支援の考え方(急性期)			講義	崎原 幸枝		
2	退院支援の考え方(回復期)			講義	崎原 幸枝		
3	地域生活支援の考え方			講義	崎原 幸枝		
4	精神科の治療理論と作業療法(精神療法、心理教育、他)			講義	崎原 幸枝		
5	精神科の理療理論と作業療法(認知行動療法、社会生活技能訓練、他)			講義	崎原 幸枝		
6	疾患別作業療法(物質関連障害)			講義	崎原 幸枝		
7	事例(物質関連障害)			講義	崎原 幸枝		
8	疾患別作業療法(児童・思春期)			講義	崎原 幸枝		
9	事例(児童・思春期)			講義	崎原 幸枝		
10	疾患別作業療法(症状および器質精神障害)			講義	照屋 若夏		
11	事例(症状および器質精神障害)			講義	照屋 若夏		
12	疾患別作業療法(摂食障害)			講義	崎原 幸枝		
13	事例(摂食障害)			講義	崎原 幸枝		
14	疾患別作業療法(てんかん)			講義	崎原 幸枝		
15	試験とまとめ				崎原 幸枝		
期末試験(50)% 提出物(20)% 小テスト(20)% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他(出席、態度)(10)%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社			
精神障害と作業療法 新版		山根 寛		三輪書店			
書名		著者		出版社			
作業療法全書 精神障害		日本作業療法士協会		協同医書			
参考書							
書名		著者		出版社			
生活を支援する 精神障害作業療法 第2版		香山明美、小林正義、鶴見隆彦		医歯薬出版			
書名		著者		出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
事前に提示された教科書あるいは資料で、わからない用語や語句は調べておいてください。							

授業科目名	精神障害の作業療法						
担当者	崎原 幸枝/ 小金澤 賢司/ 照屋 盛之						
開講年次	2年	開講期	2年前期	授業回数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要)代表的な精神疾患の概念、症状、経過、治療について学習する。							
(到達目標)作業療法を実施する上で必要な精神疾患の概要を説明することができる。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
各担当講師が小テストを実施しレポート課題を含めて評価します。							
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	総論			講義	照屋 盛之		
2	操作的診断について			講義	照屋 盛之		
3	精神病理学について			講義	照屋 盛之		
4	統合失調症			講義	照屋 盛之		
5	統合失調症			講義	照屋 盛之		
6	統合失調症			講義	照屋 盛之		
7	摂食障害			講義	崎原 幸枝		
8	てんかん			講義	崎原 幸枝		
9	アルコール依存・物質関連障害			講義	崎原 幸枝		
10	児童・思春期の精神障害			講義	崎原 幸枝		
11	器質性精神障害			講義	崎原 幸枝		
12	気分障害			講義	小金澤 賢司		
13	神経症性障害			講義	小金澤 賢司		
14	神経症性障害			講義	小金澤 賢司		
15	パーソナリティ障害			講義	小金澤 賢司		
期末試験()% 提出物(30)% 小テスト(70)% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他() ()%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社			
現代臨床精神医学		大熊輝雄		金原出版			
書名		著者		出版社			
参考書							
書名		著者		出版社			
作業療法学全書第5巻 精神障害		日本作業療法士協会		協同医書出版			
書名		著者		出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
教科書、関連図書を積極的に読み、臨床実習までに適宜活用(わからないことを調べられる)できるようにしておいてください。配布資料にはよく目を通し、わからない用語は調べておいてください。							

授業科目名	発達障害の作業療法						
担当者	溝田 康司/ 大城 由美子						
開講年次	2年	開講期	2年前期	授業回数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要)発達障害児の理解のために主として1歳までの反射・反応を含め正常運動発達について学ぶ。また、1歳以降の作業療法に必要な認知、言語・情動、行動、社会性等の領域の基本的な知識について学ぶ。							
(到達目標)1.正常発達の基礎知識を身につける。 2.子どもの認知・情動・行動や遊び、上肢機能等の発達について基礎知識を身につける。 3.グループによるまとめと発表を通してを子どもの生活技能の発達と課題を理解する。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
初回に配布する講義進行表に記載された教科書の該当ページを事前学習として一読して講義に臨むこと。 講義3回目から14回目まで毎回web復習クイズを実施。各講義終了時に当日の学びの振り返りシートを記載し提出。							
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容				方法 (講義・実技・演習)	担当者	
	オリエンテーション・子どもの発達と発達障害					溝田 康司	
	発達(人間の発達と発達の意味)				講義	溝田 康司	
	発育の4原則				講義・クイズ	溝田 康司	
	運動発達の概要と反射・反応				講義・クイズ	溝田 康司	
	反射・反応の概要				講義・クイズ	溝田 康司	
	1歳以降の運動発達				講義・クイズ	溝田 康司	
	身体活動・目と手の協応・身辺自立				講義・クイズ	溝田 康司	
	対人関係・思考・認識・遊び・言語発達				講義・クイズ	溝田 康司	
	ピアジェの発達論・心の理論・VTR				講義・クイズ	溝田 康司	
	VTR供覧(赤ちゃんの成長, NHK - DVD)				講義・クイズ	溝田 康司	
	身辺自立GW - 食事編・更衣編(上着・ズボン)				講義・クイズ	溝田 康司	
	身辺自立GW - ボタン・チャック編・トイレ編・歯磨き編・清潔編				講義・クイズ	溝田 康司	
	上肢機能の発達				講義	大城 由美子	
	遊びの発達				講義	大城 由美子	
	試験				試験	溝田 康司	
期末試験(90)% 提出物()% 小テスト(90)% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他() ()%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社			
知りたかった! PT・OTのための発達障害ガイド		新田収他編		金原出版			
書名		著者		出版社			
参考書							
書名		著者		出版社			
書名		著者		出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
毎回の講義の進行はおおよそ下記の通り。1)Web復習クイズ(10分程度) 2)教科書講義該当範囲の黙読(10分程度) 3)当日分の講義概要の説明 4)講義(50~60分程度) 5)当日分の学修記録(10分程度) 6)講義終了							

授業科目名	発達障害の作業療法						
担当者	溝田 康司/ 大城 由美子						
開講年次	2年	開講期	2年後期	授業回数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要)作業療法の対象となる、主として脳性麻痺及び狭義の発達障害(自閉スペクトラム症、注意欠如多動性障害、学習障害)について基礎知識と臨床を学ぶ。							
(到達目標)1.作業療法の対象になる脳性麻痺に関する医学的背景について理解し、説明できる。 2.作業療法の対象になる脳性麻痺の分類・特徴・評価等に理解し説明できる。 3.作業療法の対象になる狭義の発達障害に関する医学的背景について理解し、説明できる。 4.作業療法の対象になる狭義の発達障害の内容・特徴・評価等に理解し説明できる。 5.地域・学校における発達障害作業療法の役割について理解する。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
初回到配布する講義進行表に記載された教科書の該当ページを事前学習として一読して講義に臨むこと。 講義3回目から14回目まで毎回web復習クイズを実施。各講義終了時に当日の学びの振り返りシートを記載し提出。							
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者		
	発達障害とは			講義			
	運動機能障害を主訴とする群 - 脳性麻痺とは -			講義			
	運動機能障害を主訴とする群 - 脳性麻痺の分類と特徴 -			講義・クイズ	溝田 康司		
	運動機能障害を主訴とする群 - 脳性麻痺の評価 -			講義・クイズ	溝田 康司		
	運動機能障害を主訴とする群 - その他(筋ジス・二分脊椎) -			講義・クイズ	溝田 康司		
	知的機能障害を主訴とする群 - 精神遅滞・ダウン症 -			講義・クイズ	溝田 康司		
	狭義の発達障害とは			講義・クイズ	溝田 康司		
	発達障害(自閉生スペクトラム症)			講義・クイズ	溝田 康司		
	発達障害(限局性学習症, 注意欠如多動症)			講義・クイズ	溝田 康司		
	脳性麻痺の臨床像と作業療法-1			講義・クイズ	大城 由美子		
	脳性麻痺の臨床像と作業療法-2			講義	大城 由美子		
	発達障害の臨床像と評価・作業療法-1			講義	大城 由美子		
	発達障害の臨床像と評価・作業療法-2			講義	大城 由美子		
	地域・学校における発達障害作業療法の役割			講義	大城 由美子		
	試験			試験	溝田 康司		
期末試験(90)% 提出物()% 小テスト(10)% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他()()%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社			
知りたかった! PT・OTのための発達障害ガイド		新田収他編		金原出版			
書名		著者		出版社			
参考書							
書名		著者		出版社			
書名		著者		出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
毎回の講義の進行はおおよそ下記の通り。1)Web復習クイズ(10分程度) 2)教科書講義該当範囲の黙読(10分程度) 3)当日分の講義概要の説明 4)講義(50~60分程度) 5)当日分の学修記録(10分程度) 6)講義終了							

授業科目名	老年期障害の作業療法						
担当者	照屋 若夏						
開講年次	2年	開講期	2年後期	授業回数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要) 老年期における作業療法の役割を理解し、作業療法の評価と治療に必要な技術を身につける							
(到達目標) 老年期における作業療法の役割を説明できる 老年期作業療法のプロセスを理解し、評価・治療技術を身につける 老年期作業療法におけるリスクを管理し、基本的態度を身につける							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	高齢者とのコミュニケーション			講義	照屋 若夏		
2	作業療法的視点で高齢者を理解する(事例を通して)			講義	照屋 若夏		
3	作業療法的視点で高齢者を理解する(事例を通して)			講義・演習	照屋 若夏		
4	作業療法的視点で高齢者を理解する(事例を通して)			講義	照屋 若夏		
5	作業療法的視点で高齢者を理解する(事例を通して)			講義	照屋 若夏		
6	ライフステージとしての高齢期			講義	照屋 若夏		
7	高齢化社会と社会福祉			講義	照屋 若夏		
8	老年期作業療法の実施場所			講義	照屋 若夏		
9	老年期の生活活動障害(テーマを通して考える)			演習	照屋 若夏		
10	地域包括ケアシステムの中での作業療法士の役割			講義	照屋 若夏		
11	老年期作業療法の治療(認知症を中心に)			講義	照屋 若夏		
12	老年期作業療法の治療(症例を通して)			講義	照屋 若夏		
13	介護予防における作業療法(プログラム立案)			講義	照屋 若夏		
14	介護予防における作業療法(プログラム実施)			講義・演習	照屋 若夏		
15	まとめ			講義・試験	照屋 若夏		
期末試験(70)% 提出物()% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試験()% 発表(20)% その他() ()%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社			
高齢者のその人らしさを捉える作業療法		籾脇健司、藤本一博		文光堂			
書名		著者		出版社			
参考書							
書名		著者		出版社			
高齢期作業療法学 第3版				医学書院			
書名		著者		出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							

授業科目名	義肢装具学						
担当者	下地 みさ子/ 砂田 宏典						
開講年次	1年	開講期	1年後期	授業回数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要) 義肢・装具について作業療法に必要な基礎知識を学ぶ。							
(到達目標) 義肢装具の対象となる患者の評価と治療が実施できるようになるために、その歴史と総論を理解する。作業療法に必要な義肢装具の名称、目的、分類、基本的な特性について理解する。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
義肢装具士と作業療法士が担当する講義です。臨床の話や実際に義肢・装具を見て、触れることで講義を進めていきます。							
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	義肢装具学概論			講義	下地 みさ子		
2	上肢の解剖・機能			講義	下地 みさ子		
3	義手総論			講義	下地 みさ子		
4	上肢葬具総論			講義・演習	下地 みさ子		
5	下肢装具総論			講義・演習	下地 みさ子		
6	体幹葬具総論			講義・演習	下地 みさ子		
7	まとめと試験			講義・試験	下地 みさ子		
8	義肢装具士とチーム医療、義肢装具			講義・演習	砂田 宏典		
9	義足の種類と特徴 股、大腿、膝義足			講義・演習	砂田 宏典		
10	義足の種類と特徴 下腿、サイム、足袋義足			講義・演習	砂田 宏典		
11	義手の種類と特徴 肩、上腕義手			講義・演習	砂田 宏典		
12	義手の種類と特徴 前腕、筋電義手			講義・演習	砂田 宏典		
13	体幹装具、小児疾患装具の種類とチェックポイント			講義・演習	砂田 宏典		
14	下肢装具、継手、材料の特徴と種類			講義・演習	砂田 宏典		
15	まとめと試験			講義・試験	砂田 宏典		
期末試験(100)% 提出物()% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他()()%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者			出版社		
作業療学全書 改訂版3版 第9巻 作業療法技術学 義肢装具学		一般社団法人 日本作業療法士協会 (監修)			協同医書出版		
書名		著者			出版社		
参考書							
書名		著者			出版社		
書名		著者			出版社		
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							

授業科目名	義肢装具学						
担当者	下地 みさ子						
開講年次	2年	開講期	2年後期	授業回数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要) 上肢切断者に対する評価と治療について学ぶ。 上肢装具を適応とする疾患、スプリントの製作方法について学ぶ。							
(到達目標) 上肢切断者の評価と治療が実施できるようになるために、上肢切断と義手の特性について理解する。 上肢装具を治療的に応用できるようになるために、上肢装具の特性と適応する疾患について理解する。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
義手・上肢装具を実際に見て、触れながら講義を進めていきます。							
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)		担当者	
1	切断の作業療法の意義と目的			講義・演習		下地 みさ子	
2	上肢切断者の評価			講義・演習		下地 みさ子	
3	義手のチェックアウト			講義・演習		下地 みさ子	
4	義手の訓練			講義・演習		下地 みさ子	
5	筋電義手について			講義・演習		下地 みさ子	
6	まとめ 1			講義・試験		下地 みさ子	
7	上肢装具の分類と目的			講義・演習		下地 みさ子	
8	上肢装具に対する作業療法の役割			講義・演習		下地 みさ子	
9	スプリント製作			講義・演習		下地 みさ子	
10	スプリント製作			講義・演習		下地 みさ子	
11	スプリント製作			講義・演習		下地 みさ子	
12	スプリント製作			講義・演習		下地 みさ子	
13	適応疾患と実際(装具)			講義・演習		下地 みさ子	
14	適応疾患と実際(装具)			講義・演習		下地 みさ子	
15	まとめ			講義・試験		下地 みさ子	
期末試験(50)% 提出物(40)% 小テスト(10)% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他()()%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社			
作業療学全書 改訂版3版 第9巻 作業療法技術学 義肢装具学		一般社団法人 日本作業療法士協会		協同医書出版			
書名		著者		出版社			
参考書							
書名		著者		出版社			
書名		著者		出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							

授業科目名	日常生活活動						
担当者	吉岡 美和						
開講年次	2年	開講期	2年前期	授業回数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要)「生活」の概念を理解し、作業療法と「生活」「作業」とのつながりについて考える。また、狭義の日常生活や日常生活関連活動の具体的な評価方法について学習する。							
(到達目標)「生活」「作業」の概念を説明できる 日常生活活動および日常生活関連活動の評価ができる 生活を支える作業療法の概念と知識を理解する							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者		
	生活の中の作業						
	日常生活活動の概念、範囲、意義						
	ADLと国際障害分類						
	作業の概念とその目的						
	評価の構造						
	評価と治療介入の関係						
	代表的な評価法を理解する(Barthl index)						
	代表的な評価法を理解する(FIM)						
	代表的な評価法を理解する(COPM)						
	代表的な評価法を理解する(その他)						
	統合と解釈(ICFを用いて)統合と解釈(MTDLPを用いて)						
	統合と解釈(MTDLPを用いて)						
	作業遂行の課題と支援の視点						
	作業遂行の課題と支援の視点						
	試験						
	期末試験(80)%	提出物(10)%	小テスト()%	実技試験()%			
	口頭試問()%	発表()%	その他(GW参加状況)(10)%				
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
	書名	著者	出版社				
	作業療法学全書 第11巻 日常生活活動		協同医書出版社				
	書名	著者	出版社				
参考書							
	書名	著者	出版社				
	標準作業療法学 作業療法評価学		医学書院				
	書名	著者	出版社				
	作業ってなんだろう 作業科学入門		医歯薬出版株式会社				
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							

授業科目名	日常生活活動						
担当者	吉岡 美和/ 山城 峻/ 専任教員/ 富盛 真太郎						
開講年次	2年	開講期	2年後期	授業回数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要)ひとが生活する上で必要な作業の遂行能力の評価と分析の基礎を学び、疾患による違いを学ぶ。							
(到達目標) 正常動作の分析と表現方法を知る。 対象者の動作の特徴を知る							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者		
	正常動作の観察 基本				専任教員		
	正常動作の観察 個人差への気づきと言語化				専任教員		
	ADL動作の工程と動作、専門用語での表現				専任教員		
	ADL活動に与える影響 身体機能				専任教員		
	ADL活動に与える影響 認知機能				専任教員		
	ADL活動に与える影響 環境				専任教員		
	疾患によるADL・IADLの特徴と支援 脳血管障害				専任教員		
	疾患によるAD・IADL Lの特徴と支援 脊椎損傷				専任教員		
	疾患によるADL・IADLの特徴と支援 リウマチ				専任教員		
	疾患によるADL・IADLの特徴と支援 難病				専任教員		
	疾患によるADL・IADLの特徴と支援 内部疾患				専任教員		
	疾患によるADL・IADLの特徴と支援 精神疾患				専任教員		
	動画を用いた対象者の観察演習				専任教員		
	動画を用いた対象者の観察演習				専任教員		
	試験				専任教員		
期末試験(40)% 提出物(20)% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試験()% 発表(20)% その他(GW参加状況)(20)%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社			
作業療法学全書 第11巻 日常生活活動				協同医書出版社			
書名		著者		出版社			
参考書							
書名		著者		出版社			
書名		著者		出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							

授業科目名	職業関連活動						
担当者	嘉数 栄司/ 非常勤講師						
開講年次	1年	開講期	1年後期	授業回数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要)人にとっての職業の意義や職業リハビリテーション活動について理解する。また、就労支援に関連する法制度等を理解し、職業関連活動における作業療法士の役割について学習する。							
(到達目標)働くことの意義について理解し説明できる。 対象者の職業能力評価法や訓練方法、医療的援助方法を列挙できる。 就労支援における作業療法士の役割を説明できる。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	人と職業(働くとは)			講義	嘉数 栄司		
2	職業の発生と文化、職業リハビリテーション活動の概念			講義	嘉数 栄司		
3	就労支援に関する理論			講義	嘉数 栄司		
4	障害者にとっての職業の意義			講義	嘉数 栄司		
5	障害者雇用の現状と課題			講義	嘉数 栄司		
6	障害者の就労に関連する法制度			講義	嘉数 栄司		
7	就労支援の基本的な考え方			講義	嘉数 栄司		
8	就労支援における作業療法士の役割			講義	嘉数 栄司		
9	職業評価・職務分析			講義	嘉数 栄司		
10	評価の方法と留意点			講義	嘉数 栄司		
11	環境評価・評価結果のまとめ方			講義	嘉数 栄司		
12	関連職種・機関との連携			講義	非常勤講師		
13	就労支援の実際			講義	非常勤講師		
14	事例検討			演習	嘉数 栄司		
15	試験			試験	嘉数 栄司		
期末試験(80)% 提出物(10)% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表(10)% その他()()%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社			
適宜資料を配布します。							
書名		著者		出版社			
参考書							
書名		著者		出版社			
書名		著者		出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							

授業科目名	作業療法治療学演習						
担当者	専任教員/ 知花 貞幸						
開講年次	2年	開講期	2年後期	授業回数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要) 自律的学習スキル・批判的思考を身につける。検査測定実施、コミュニケーションスキル等、学際的・統合的手法を体験する。体験をもとに情報を整理し、的確な記録の実際を学ぶ。							
(到達目標) 自律的学習スキル・批判的思考を身につける。 検査測定実施、コミュニケーションスキル等、学際的・統合的手法を体験する。 体験をもとに情報を整理し、的確な記録の実際を学ぶ。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	オリエンテーション			講義	知花 貞幸		
2	シナリオ1(症例:CVA)			講義・演習	知花 貞幸		
3	シナリオ2			講義・演習	知花 貞幸		
4	シナリオ3評価演習			演習	知花 貞幸/ 専任教員		
5	シナリオ4日誌 記録			講義・演習	知花 貞幸		
6	シナリオ5ICF			講義・演習	知花 貞幸		
7	OSCE			演習	知花 貞幸/ 専任教員		
8	まとめ			演習	知花 貞幸		
9	CVAの評価			講義	知花 貞幸		
10	CVAの評価と治療			講義・演習	知花 貞幸		
11	CVAの評価立案			演習	知花 貞幸		
12	CVAの治療プログラム立案			講義・演習	知花 貞幸		
13	CVAの治療プログラム立案			演習	知花 貞幸		
14	CVAの治療プログラム実施(OSCE)			演習	知花 貞幸/ 専任教員		
15	まとめ			演習	知花 貞幸		
期末試験()% 提出物(40)% 小テスト()% 実技試験(40)% 口頭試験()% 発表()% その他(出席・態度)(20)%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社			
配布資料							
書名		著者		出版社			
参考書							
書名		著者		出版社			
書名		著者		出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
作業療法評価、治療に必要と思われる文献で予習・復習すること。							

授業科目名	作業療法治療学演習						
担当者	照屋 若夏/ 専任教員						
開講年次	2年	開講期	2年前期,2年後期	授業回数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要)PBL(問題基盤型学習・問題解決型学習)を基に自律的学習スキル・問題解決的思考を身につけながら、精神科作業療法の一連の流れを模擬的に経験する。また、アクティブラーニング型授業による、対話的で体験的な授業から、コミュニケーションスキルの向上や職業人としての資質の向上を目指していく。							
(到達目標) 臨床における精神科作業療法の一連の流れを理解することができる 自律的学習スキル・問題解決的思考を身につけることができる 症例や他職種から受け入れてもらえる・信頼される基本的態度を身につけることができる							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
オリエンテーションで説明します							
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	オリエンテーション			講義	照屋 若夏		
2	シナリオ1(統合失調症)			講義・演習	照屋 若夏		
3	シナリオ2(統合失調症)			講義・演習	照屋 若夏		
4	シナリオ3(統合失調症)評価演習			講義・演習	照屋 若夏/ 専任教員		
5	シナリオ4(統合失調症)日誌 記録			講義・演習	照屋 若夏		
6	シナリオ5(統合失調症) ICF			講義	照屋 若夏		
7	評価まとめ OSCE			演習	照屋 若夏/ 専任教員		
8	振り返り・まとめ			演習	照屋 若夏/ 専任教員		
9	統合失調症・認知症の評価			講義	照屋 若夏		
10	統合失調症・認知症の評価と治療			講義・演習	照屋 若夏		
11	統合失調症・認知症の治療プログラム立案			講義	照屋 若夏		
12	統合失調症・認知症の治療プログラム立案			講義・演習	照屋 若夏/ 専任教員		
13	統合失調症・認知症の治療プログラム実施 OSCE			演習	照屋 若夏/ 専任教員		
14	統合失調症・認知症の治療プログラム実施 OSCE			演習	照屋 若夏/ 専任教員		
15	振り返り・まとめ			演習	照屋 若夏/ 専任教員		
期末試験()% 提出物(40)% 小テスト()% 実技試験(40)% 口頭試問()% 発表()% その他(出席・態度)(20)%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社			
資料配布							
書名		著者		出版社			
参考書							
書名		著者		出版社			
書名		著者		出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
クラスメイトや教員と会話をしたり、相談したりする「対話」を大切にしたい内容になっています。精神科の臨床では見えない心を「対話」を通して考えていきますので、短期臨床実習や総合実習に向けてより実践的に学べる内容になっています。							

授業科目名	地域作業療法学						
担当者	嘉数 栄司/ 非常勤講師						
開講年次	2年	開講期	2年前期	授業回数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要)地域リハビリテーションにおける関連する法制度及び施策について理解を深め、地域社会における作業療法士の役割を学習する。							
(到達目標) 地域リハビリテーションの概要を理解し説明ができる。 地域作業療法とは何かを理解し説明ができる。 地域リハビリテーションに関連する法制度及び施策を知り、作業療法士の視点からライフステージに応じた課題解決策を提案をすることができる。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	地域リハビリテーションの基本的な考え方				嘉数 栄司		
2	ライフステージ別の生活特性と健康課題				嘉数 栄司		
3	社会保障制度				嘉数 栄司		
4	介護保険制度				嘉数 栄司		
5	介護保険制度				嘉数 栄司		
6	障害者総合支援法				嘉数 栄司		
7	障害者総合支援法				嘉数 栄司		
8	チーム医療とチームアプローチ				嘉数 栄司		
9	病院・診療所の概要とOTの役割				嘉数 栄司		
10	介護老人保健施設・介護老人福祉施設の概要とOTの役割				嘉数 栄司		
11	通所リハビリテーション・通所介護の概要とOTの役割				嘉数 栄司		
12	訪問リハビリテーションの概要とOTの役割				嘉数 栄司		
13	行政及び地域包括支援センターの概要とOTの役割				嘉数 栄司		
14	地域包括ケアシステム				非常勤講師		
15	試験				嘉数 栄司		
期末試験(80)% 提出物(10)% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表(10)% その他() ()%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
	書名	著者	出版社				
地域作業療法学	ゴールドマスターテキスト	長崎重信	メジカビユー社				
	書名	著者	出版社				
参考書							
	書名	著者	出版社				
	書名	著者	出版社				
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							

授業科目名	地域作業療法学						
担当者	金城 知子						
開講年次	2年	開講期	2年前期	授業回数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要)福祉用具とは何か、その定義と考え方を学ぶ。作業療法士としての用具を用いた支援のあり方を学ぶ。							
(到達目標) 福祉用具選択の考え方が理解できる。福祉用具選択事項を列記することができるようになる。 褥瘡予防の重要性を理解し、福祉用具選択のポイントをあげることができる。 福祉用具の重要性を理解し、福祉用具選択のポイントをあげることができる。 座位保持の分析実施し、適応となる福祉用具(シーティングクッション)を作成する。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
実技演習時には、速やかに行動すること。 実技演習時は、動きやすい軽装着用(ポケットに何も入れない)のこと。							
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容				方法 (講義・実技・演習)	担当者	
1	福祉用具総論 福祉用具とは				講義	金城 知子	
2	褥瘡関連の福祉用具				講義	金城 知子	
3	褥瘡関連～起居・床上関連の福祉用具				講義	金城 知子	
4	起居・床上関連の福祉用具				講義	金城 知子	
5	座位保持装置・シーティングの実際				講義	金城 知子	
6	座位保持装置・シーティングの実際(測定)				講義	金城 知子	
7	座位保持装置・シーティングの実際(演習)				講義	金城 知子	
8	座位保持装置・シーティングの実際(演習)				講義	金城 知子	
9	移乗関連用用具 理論 リフト				講義	金城 知子	
10	移乗関連用用具 スライディングシート(ベッド上移動)				講義	金城 知子	
11	移乗関連用用具 リフト				講義	金城 知子	
12	移乗関連用用具 スライディングボード・シート 移乗				講義	金城 知子	
13	移乗関連用用具 リフト・スライディングボード・シート演習				講義	金城 知子	
14	移乗関連用用具 実技テスト				講義	金城 知子	
15	まとめ				講義・試験	金城 知子	
期末試験(100)%		提出物()%		小テスト()%		実技試験()%	
口頭試問()%		発表()%		その他()		()%	
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社			
福祉用具の使い方・住環境整備(作業療法全書)				協同医書			
書名		著者		出版社			
参考書							
書名		著者		出版社			
はじめての福祉機器 選び方・使い方				国際福祉機器展 副読本			
書名		著者		出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							
技術にはそれに基づく根拠があるので、ただ覚えるのではなく、その原理原則をよく理解するようにすること。 現場で役立つ技術伝達をするので、テストに受かる為の履修ではなく、卒業後も技術習得と技術の研鑽が必須という事を踏まえ、 大久を身につけるように努力すること。							

授業科目名	地域作業療法学						
担当者	新里 碧						
開講年次	2年	開講期	2年後期	授業回数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要)住環境整備と支援機器に関わる基本的な作業療法について理解する。 予防に寄与する基本的な作業療法について理解する。							
(到達目標)福祉用具について体験し、適用や選択ができる。福祉用具種別に応じたアセスメント、支援の実際について説明できる。 住宅改修の基礎技術について説明できる。福祉用具供給システムについて説明できる。 予防作業療法の目的と意義、関連した評価、プログラムについて説明できる。 自助・共助を促進する方法について説明できる。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)		担当者	
1	移動関連用具:車いすの種類			講義		新里 碧	
2	移動関連用具:車いすの適合			講義・演習		新里 碧	
3	移動関連用具:車いすの調整			講義・演習		新里 碧	
4	移動関連用具:杖・歩行補助具			講義・演習		新里 碧	
5	入浴関連用具の適用			講義・演習		新里 碧	
6	排泄関連用具の適用と演習			講義・演習		新里 碧	
7	食事関連用具の適用と演習			講義・演習		新里 碧	
8	整容・更衣関連用具の適用と演習			講義・演習		新里 碧	
9	コミュニケーション関連用具の適用と演習			講義・演習		新里 碧	
10	住宅改造・改修:演習			講義・演習		新里 碧	
11	住宅改造、見取り図の書き方			講義・演習		新里 碧	
12	福祉用具プランニング:演習			講義・演習		新里 碧	
13	福祉用具プランニング:演習			講義・演習		新里 碧	
14	予防作業療法			講義		新里 碧	
15	まとめ			講義		新里 碧	
期末試験()% 提出物(100)% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他()()% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社			
作業療法学全書 第10巻 福祉用具の使い方・住環境整備		日本作業療法士協会 監修		協同医書出版社			
書名		著者		出版社			
参考書							
書名		著者		出版社			
書名		著者		出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							

授業科目名	地域作業療法学						
担当者	嘉数 栄司/ 非常勤講師						
開講年次	2年	開講期	2年後期	授業回数	30	単位数	1
授業の概要・到達目標							
(概要)精神障害領域における対象者の地域生活や法制度について理解を深め、作業療法士の視点から具体的支援方法について学習する。							
(到達目標) 精神障害に関連する社会資源(施設や法制度等)について理解することができる。 精神障害領域の地域生活支援における作業療法の役割について理解し説明できる。 事例を通して地域で生活する対象者の全体像(ICF)を把握し、作業療法士の視点から具体的支援策を提案できる。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
精神障害者の衣食住についての演習授業の中で調理実習を行う予定です。当日はエプロンと三角巾を持参してください。							
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者		
1	精神保健医療福祉の動向			講義	嘉数 栄司		
2	早期退院・退院支援と地域生活支援			講義	嘉数 栄司		
3	その人らしい生活を支援する視点			講義	嘉数 栄司		
4	地域生活支援の視点			講義	嘉数 栄司		
5	地域生活支援における再発予防のためのかわり方			講義	嘉数 栄司		
6	地域におけるケアマネジメントの展開			講義	嘉数 栄司		
7	社会資源の活用			講義	嘉数 栄司		
8	地域におけるケアマネジメントの展開			講義	嘉数 栄司		
9	外来作業療法における支援の実際			講義	嘉数 栄司		
10	訪問サービスにおける支援の実際			講義	嘉数 栄司		
11	デイケアにおける支援の実際			講義	非常勤講師		
12	就労支援の実際			講義	非常勤講師		
13	家族支援と心理教育の重要性			講義	嘉数 栄司		
14	事例検討			講義・演習	嘉数 栄司		
15	試験			試験	嘉数 栄司		
期末試験(90)% 提出物(10)% 小テスト()% 実技試験()% 口頭試問()% 発表()% その他()()%							
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
書名		著者		出版社			
生活を支援する精神障害作業療法		香山明美・小林正義・鶴見隆彦		医歯薬出版			
書名		著者		出版社			
参考書							
書名		著者		出版社			
書名		著者		出版社			
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							

授業科目名		見学実習				
担当者		各施設実習指導者・学科教員/ 専任教員				
開講年次		1年	開講期	1年前期	授業回数	45
		単位数	1			
授業の概要・到達目標						
<p>(概要) 通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーションで働く作業療法士の活動を見学を通し学ぶ。作業療法の役割と位置づけ、他職種との連携などを通してリハビリテーションチームとは何かを体験する。地域包括ケアシステムにおける通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーションの役割や、リハビリテーションマネジメントについて学ぶ。作業療法士に必要な態度・技能・知識・能力を臨床現場で学ぶ。</p>						
<p>(到達目標) 生活の中での作業療法の目的を知る。作業療法士が関わるひとや職種を知る。地域における作業療法士の業務内容や作業療法士の考えを学ぶ。社会人として必要なコミュニケーション技術を学ぶ。</p>						
履修における注意事項（受講ルールなど）						
<p>授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。</p>						
回数	講義内容				方法 (講義・実技・演習)	担当者
	地域実習(1週間)				臨床実習	各施設実習指導者・学科教員
	報告会					専任教員
<p>期末試験 () % 提出物 (30) % 小テスト () % 実技試験 () % 口頭試験 () % 発表 (30) % その他 (臨床実習施設での評価) (40) % ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。</p>						
教科書						
	書名	著者			出版社	
	書名	著者			出版社	
参考書						
	書名	著者			出版社	

書名	著者	出版社
教員からのメッセージ（予習・復習の方法に関するアドバイスなど）		

授業科目名	評価実習		
担当者	各施設実習指導者・学科教員/ 専任教員		
開講年次	2年	開講期	2年前期
授業回数	90	単位数	2
授業の概要・到達目標			
<p>(概要) 精神障害部門の評価実習 精神障害を持つ対象者の生活課題を理解するために、必要な情報の選択と収集方法を知る。 臨床実習指導者の指導のもと、理論と技術の模倣と実施を行う。</p> <p>(到達目標) 1. 対象者を総合的に把握するために必要な情報収集および評価方法の考え方と実践力を養う。 2. 対象者の問題点を把握したうえで目標を設定し、治療プログラムを作成する能力を養う。 3. 対象者の評価、治療プログラム等について正確・客観的・簡潔に記録し報告する能力を養う。 4. 臨床における作業療法および作業療法士の役割と機能を学ぶ。</p>			
履修における注意事項（受講ルールなど）			
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。			
回数	講義内容	方法 (講義・実技・演習)	担当者
	精神障害部門 評価実習(2週間)	臨床実習	各施設実習指導者・学科教員
	報告会		専任教員
期末試験 () %	提出物 (30) %	小テスト () %	実技試験 () %
口頭試問 () %	発表 (30) %	その他 (臨床実習施設での評価)	(40) %
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。			
教科書			
書名	著者	出版社	
書名	著者	出版社	
参考書			
書名	著者	出版社	
書名	著者	出版社	
教員からのメッセージ (予習・復習の方法に関するアドバイスなど)			

授業科目名	総合臨床実習						
担当者	各施設実習指導者・学科教員/専任教員						
開講年次	3年	開講期	3年前期,3年後期	授業回数	405	単位数	9
授業の概要・到達目標							
(概要)臨床実習指導者の指導のもとに、作業療法対象者の全体像を把握、作業療法計画、治療・指導・援助などを通して、作業療法士としての知識と技能及び態度を身に付け、保健・医療・福祉に関わる専門職としての認識を高める。							
(到達目標) 倫理観や基本的態度を身につける。 許容される許容される臨床技能を实践できる。 臨床実習指導者の作業療法の臨床思考過程を説明し、作業療法の計画立案ができる。							
履修における注意事項(受講ルールなど)							
授業スケジュール 事前に説明があった上で、変更される場合があります。							
回数	講義内容			方法 (講義・実技・演習)	担当者		
	精神障害部門 総合実習(9週間)			臨床実習	各施設実習指導者/学科教員		
	報告会				専任教員		
	OSCE				専任教員		
	期末試験()%	提出物(20)%	小テスト()%	実技試験(20)%			
	口頭試験()%	発表(20)%	その他(臨床実習施設での評価)	(40)%			
ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書							
	書名	著者	出版社				
	書名	著者	出版社				
参考書							
	書名	著者	出版社				
	書名	著者	出版社				
教員からのメッセージ(予習・復習の方法に関するアドバイスなど)							